

同窓会報



開学70周年の横断幕と今年の桜

道後温泉の改修工事がスタート



松山市教育研修センター(左)と日赤立体駐車場
(学内から正門を東へ向かって撮影)



道後温泉本館が火の鳥に覆われる



本館神の湯棟入口に設置された火の鳥オブジェ

愛媛大学法文学部同窓会事務局

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.089-917-6376

E-mail:support@ehime-u-houbun-dousoukai.com [HP] <http://ehime-u-houbun-dousoukai.com>

法文学部創立50周年記念式典が 開催されました

愛媛大学創立記念日・学生祭・ホームカミングデイに合わせて、法文学部創立50周年記念行事が行われました。当日は、法文学部の卒業生でもある東京経済大学の岡本英男学長による「私と大学－松山・仙台・東京－」と題する記念講演もあり、法文学部教職員、同窓生、来賓の方々を合わせて約200名が50周年を祝いました。

日 時 2018(平成30)年11月11日(日) **会 場** ANAクラウンプラザホテル松山(南館)
13:00～ 記念式典
15:00～ 祝 賀 会



50周年を記念して作られた法文学部マスコットキャラクター「ぶんぽん」お披露目



大橋学長や高橋校友会長ら愛媛大学関係者が在籍する男声合唱団「ダンディーズ」の演奏

愛媛大学法文学部創立五十周年記念誌の販売

2018年11月11日(日)に愛媛大学法文学部創立50周年記念式典がANAクラウンプラザホテル松山で開催され(上記参照)、出席者に記念として『愛媛大学法文学部創立五十周年記念誌』が配付されました。

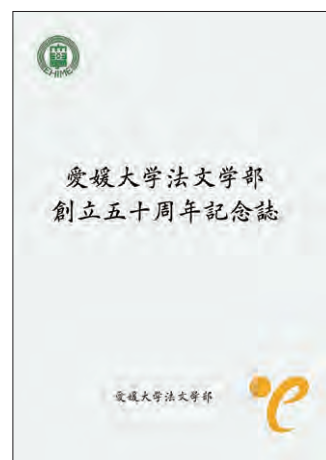
その後、同窓会員の一部の方から「記念誌が欲しい」との声が同窓会に寄せられました。

この記念誌は限定品であることから、同窓会で種々検討した結果、次のような要領で販売することとなりました。

【購入方法】

購入代金3,000円(送料込) ※60冊限定(先着順)

購入希望の方は、会報に同封しているハガキの法文学部創立五十周年記念誌希望欄にチェックを入れていただいて、同窓会にご返送ください。同窓会より振替用紙を送付させていただき、入金が確認され次第、記念誌を送付いたします。



同窓会創立60周年記念事業

法文学部同窓会は60周年を迎えました。祝賀会はありませんが、下記の事業を行います。

- ① 同窓会名簿の発行
- ② 同窓会仕様の「ぶんぼートートバッグ」の作成（支部総会出席者全員にプレゼント）
- ③ 「ぶんぼーエコバッグ」の作成（今回、3,000円以上の寄付をされた方にプレゼント）
- ④ 60周年記念「ぶんぼークリアファイル」（本誌に同封）

このほか、今年の支部総会では、最近、ANA国際線の機内酒に採用された愛媛の二つの蔵元の吟醸酒（梅錦、石鎚）を味わっていただけます。



ぶんぼートートバッグ

ヨコ34cm×タテ30cm×幅12cm

ぶんぼーエコバッグ

ヨコ42cm×タテ43cm×幅13cm

同窓会名簿が発行されました

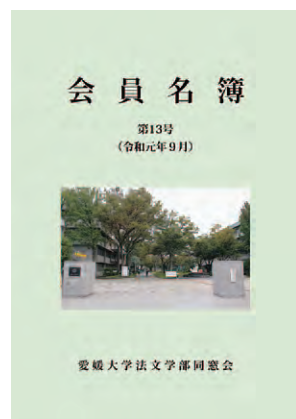
17年振り！ 同窓会創立60周年記念

ご購入希望の方は、会報に同封されているハガキの同窓会名簿希望欄にチェックを入れて同窓会にご返送ください。

購入代金 4,500円（送料込） ※40冊限定（先着順）

同窓会より振替用紙を送付させていただき、入金が確認され次第、名簿を送付いたします。まだ購入されていない方は、この機会に是非ご購入ください。

※お一人様1冊、名簿に氏名が掲載されている方のみに限ります。
（代金振り込み済みの方には、9月上旬に名簿が届きます）



目次



愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

法文学部同窓会報
第23号

法文学部創立50周年記念式典	2
記念誌の販売	2
同窓会創立60周年記念事業	3
同窓会名簿の発行	3
総会報告・「ふるさと応援」制度新設	4
寄付のお願い	4
新三役あいさつ (1)	5
研究室紹介 (社会科学・鈴木先生)	6
(人文学・寺内先生)	7
「ぶんぼー」誕生秘話	8
西日本豪雨災害と歴史資料の保全活動	10
退職された教員の方々	12
本部新理事・支部理事一覧	14
人事異動/文系全学研究センター	15
寄付ご芳名一覧	16

理事会報告	17
ホームカミングデイ/愛媛大学70周年など	18
50周年学生アンバサダー活動	19
卒業生から	20
提供講座報告/感想	22
放送大学/お城下リレーマラソン	24
サークル紹介 (愛媛大学合唱団)	25
平成30年度卒業記念祝賀会	26
支部だより	28
支部紹介 (広島支部)	30
パズル/感想/編集後記	32

題字：柴田 祐昭
（文理学部人文学科史学専攻・第8回卒）
[明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・
県展審査員・毎日書道展審査会員]

第15回 法文学部同窓会 総会報告

3年に1度の本部総会が開催されました。当日は、法文学部創立50周年記念式典が午後から行われるため、午前中に同じ会場での開催となりました。講演や懇親会は行わず、ホテルで軽食を食べ、ほとんどの出席者がそのまま50周年式典・懇親会に参加しました。

日 時：2018(平成30)年11月11日(日)

11:00～ 四国支部総会

11:20～ 本部総会

12:00～ 軽 食

会 場：ANAクラウンプラザホテル松山(南館)

内 容：同窓会員数報告・決算予算報告・支部活動報告・理事会開催報告・3年間の事業活動のまとめ・次期3年間の重点課題と事業活動方針・役員改選

出席者：91名



寄付の「ふるさと応援」制度を新設 (今年から)

今年から寄付の「ふるさと応援」制度を実施します。同封の寄付の振替用紙の通信欄に「〇〇支部へも寄付」と記入あるいは会報に同封されているハガキの「寄付の半分を支部へ割り当て」欄にチェックがある場合は、半額を指定された支部に交付します。

平成31年3月末現在、361名の方から約180万円のご寄付をいただきました。

寄付の中から100万円を愛媛大学基金を通じて法文学部学生の海外留学支援に活用させていただきました。支援対象の学生数は133名で、大学からは687万円が補助されました。

なお、留学生の活動状況は、会報に同封した「青い地球交流記」をご覧ください。



引き続き同窓会への寄付をお願いいたします。

60周年の今年に限り、

「ぶんほーエコバッグ」を
(レッド・ネイビーどちらか)

もれなくプレゼント！

※同封の振替用紙にお好みの色をご記入ください。
未記入の場合はどちらかになります。



ネイビー



レッド

素晴らしい出会いと感動を！



法文学部同窓会会長
西田 和真
(1973年法学科卒)

この度、小池昭彦前会長の後を引き継ぎ、1月から第16代会長に就任いたしました。これから3年間、法文学部同窓会発展のために、新役員の皆様のご協力をいただきながら、全力を尽くしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、同窓会は会員相互の親睦を深めることが本来の目的ではないかと思います。現在、同窓会員は2万人を超え、関東・関西・広島・四国の四つの支部があり、各地域で支部活動を行い親睦を深めています。まだ参加されたことがない会員の皆様、是非、支部活動に参加されて、活動の幅を少し広げてみませんか。一人でも多くの会員の方々に素晴らしい出会いを経験し感動を味わっていただきたいと思います。

また、年1回9月頃に同窓会報を発行し、会員相互の情報交換や大学の現状を会員の皆様にお伝えしています。同窓会ホームページも全面的にリニューアルして旬の情報発信に努め、スマホからアクセスして住所変更の手続きができるよう利便性の向上も図っております。

一方、大学学部との連携・側面支援では、毎年、同窓会提供講座を開講し、同窓生が講師となって学生に講義をしており、大学のキャリア教育として位置づけられ好評を博しています。今年は13回目の開講が予定されています。

更に、2016年4月の法文学部改組に伴い、グローバル・スタディーズ履修コースが新設され、学生の海外留学が大幅に増加したことに伴い、海外留学支援のため同窓会も毎年100万円の寄附を行っています。

今後とも、会員の皆様方のご支援並びに協力をよろしくお願いいたします。

映画「寅さん」の とらやを目指します



法文学部同窓会副会長
渡部 雅泰
(1985年経済学科卒)

この度、副会長に就任しご挨拶申し上げます。就任1年目、小池前会長より「ネットを含めて情報発信をがんばってほしい」と命を受けました。会報とホームページを担当します。誠意誠心頑張りますのでよろしくお願いいたします。

私は1985年卒、経済学科創立1期生です。元旅行会社に勤め、ラスベガス見本市で見たインターネットの登場を契機にITの世界に起業して約20年の時が流れました。

法文学部同窓会は気骨があってユニークな日本酒党・西田会長を筆頭に、法文学部愛に溢れる松本副会長、経験豊富な鳥生事務局長、そして長年同窓会を支えてくださる先輩理事の皆さん、献身的な女性理事の皆さん、そして個性豊かな理事の皆さんが集結しています。「若い世代の方にいかに同窓会に関心を持っていただくか」など、大きなテーマが今散在しています。一步一步頑張らねばなりません。

私は寅さんの映画が大好きなんです。寅さんは、毎度無様な恋を晒して、時にどうにでもなれと捨て鉢になり、孤独な旅人はそれでも「困った時はお互いですからね」を真剣に生きている。甥っ子の満男が「叔父さんを笑うことは、自分自身を笑うことなんだから」とつぶやくシーンには泣きました。

同窓会が帰りたくなる家、賑わいのある柴又帝釈天参道「とらや」になるように頑張ります。

研究室紹介

社会科学講座

鈴木 静教授

社会保障法

野寄(以下「野」)：まずはどんなことを研究されているか教えてください。

鈴木先生(以下「鈴」)：社会保障法です。なかでも研究テーマは大きく三つあります。一つはハンセン病の医療政策、二つ目は生活保護、三つ目は2016年に起きた津久井やまゆり園殺傷事件についてです。この事件を覚えていらっしゃるでしょうか。

野：施設の職員が老人を殺傷した・・・？

鈴：老人ではなくて障害のある人なのですが、その事件です。知的障害のある人たちが住む福祉施設へ元職員が忍びこんで、19人を刺殺し27人を負傷させた事件です。その問題がなぜ起きたのかその検証や再発防止策について、取り組んでいます。

野：似たような事件がほかにも起こっていますよね。

鈴：そうですね。老人ホームなどの福祉施設で職員が利用者を虐待し、殺してしまったり。そういった問題が頻発していますね。利用者の人権や職員の労働条件がどうであったか、さらには社会保障政策の関連で、津久井やまゆり園事件を検討しています。

野：では、働いている側の生活についても含めて研究されているんですね。

鈴：はい。働いている人たちの労働条件とか政策の関係も調べています。

野：最近というわけではないかもしれませんが、こういった問題についてクローズアップされることが増えているような気がします。SNS等で匿名の発言ができることによって、やまゆりの事件などでは犯人を擁護するような意見もありました。そういった声があらたな事件を呼んでいるような。

鈴：そうですね。現代の課題でもあると思います。インターネットの社会的な影響の大きさは驚いています。私は、津久井やまゆり園事件の被告人と面談していますが、彼はいまだに自分は事件についての主張を変えていません。その背景には、やはりインターネットで同調する声があるからで、現代の深刻な課題の一つだと思います。

野：「自己責任」という言葉もよく聞くようになりました。私は離婚して母子家庭なのですが、死別はともかくとして、離婚による母子家庭が社会保障を受けることがすごく非難される。

鈴：それは実際に周りで言われるのですか？

野：いえ、私の周りで言う人は一人もいません。が、ネット上であまりにもそういった声が多くて、でもそういう人たちもリアルでは言ってないだろうと思います。

鈴：そうですね。まさにそういう雰囲気ですね。

野：実際に行政から大きな支援をいただいているのは実感してて、とても感謝しています。

鈴：そういった児童扶養の政策が充実していたら、子供を育てていきますよね。日本国憲法のもとで2000年代に入るころまでに、社会保障を受けることは恥ではないし、社会手当を受けることは、権利なんだとだんだん考えられるようになりました。大きな進展です。しかし2000年代初頭から雰囲気がガラッと変わって、社会保障はバラマキ、社会保障に頼ることをよしとしない「自己責任論」が強調されるようになりました。

野：なぜ雰囲気が変わったんでしょう。

シリーズ第7回となる今回も、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、取材してきました。

鈴：小泉政権のころから社会保障費が削減されるようになりました。そして格差と貧困が広がる中で政権が民主党に移り、「コンクリートから人へ」という政策で「生活保護は恥じゃない」という考えが広まってきました。再度、政権交代があって、そこで自民党議員自らが生活保護利用を非難する発言をして、あっという間に世間の雰囲気が変わってしまいました。

野：こういった研究をされるようになったきっかけは。

鈴：どれも「必要にせまられて」です。時代の中で、取り組まなければならない研究がでます。2001年にハンセン病の隔離政策は人権侵害だったという熊本地裁判決がありました。判決は画期的で大きな意義がありますが、一方で裁判後も故郷に帰れず療養所で暮らし続けざるを得ない方々が相当数いらっしゃった。裁判に勝って問題は終わりではなく、裁判を活かして元患者・回復者の皆さんがどのように生きていけるか、暮らしていけるかが問われると思い、調査研究に取り組むことになりました。津久井やまゆり園事件なども同様です。事件が起きて、私たちの社会に突き付けられている課題に取り組んでいます。

野：ゼミではどんなことを。

鈴：2、3回生の段階では、ゼミ生みんな興味のあるテーマをすりあわせて、ゼミ生が共同で調査研究をしています。3回生は、夏季休業中に社会保障法合同ゼミをしています。関西圏を中心に、7つほどの大学で社会保障法を学ぶ学生80人程度で、1泊2日で実施しています。このゼミは私が学生のころから続いているんですよ。合同ゼミが始まった当時から、他流試合をするためにを行っています。それぞれの大学で議論し合っていると、なれ合いになってしまう部分があります。それで異なる意見や考え方の違う他大学の学生と、議論し合うことで視野を広げたり、知識を深めようとしています。実際、学生たちには大きな刺激になっているようです。昨年は、愛媛大学夜間主ゼミが最優秀賞を、屋間主ゼミがベスト・ネーミング賞を受賞しました。学生を見ると、BBQや他大学の学生らとの交流も楽しんでいるようです。

野：プライベートも少し。ご趣味は？

鈴：文鳥を飼っています。手乗り文鳥。この子はまだ生まれて半年ほどで、可愛いんです～。

野：では、文鳥を飼いだしたのは最近？

鈴：いえ、最初に飼いだしてから20年くらいです。この前に飼っていた子は急死してしまったんです。マンションの漏水トラブルで、3か月ほど自宅に住むことができなくなりましたが、その間にストレスから急死しました。悲しくて、悲しくて……。その分、今の子を溺愛しています。漏水で自宅に住めなくなった経験は、自然災害等で急ぎ避難所等に住まざるをえなかった方の気持ちの一端がわかる機会になりました。ある日突然に自宅に住めなくなるとはどういう気持ちか、そのなかで家族やペットと離れ離れになり、場合によってはこのように急死してしまう。いろいろ重なるなかで、自分も家族やペットもストレスがかかる状況……。実際に経験してみないとわからないし、自宅があり穏やかな日常がどれだけ有難いかも実感できました。その分、文鳥も前にもましてかわいいです。



30分の予定が、話が弾んで1時間にもなってしまいました。とても気さくで話しやすい鈴木先生、長い時間をとっていただきありがとうございました。

(インタビュアー 野寄明子)

人文学講座

寺内 浩教授

日本史

Q. どういった研究をなさっているか教えてください。

A. 専門は日本古代史です。主たる研究テーマは平安時代の瀬戸内海賊、藤原純友。そして四国遍路・世界の巡礼研究センターの活動。

1: 藤原純友の乱について

平安時代の瀬戸内の海賊は何度も蜂起し、政府を悩ませていました。天元5年(982年)2月7日、蔵人頭藤原実質の「小右記」には海賊のため租税の輸送が困難になったとあります。その海賊は太鼓をうち金鼓をたたき、行き来する人々を脅かし、相手の舟にはその音で恐怖感を与えたと記されています。帆足に自身があるからの戦術のようです。

藤原純友という人物は、瀬戸内海賊の頭領という印象が強いでしょう。当初藤原純友はこの海賊を取り締まる立場でした。しかしながら、海賊を平定した後は京に帰らず伊予国に留まり、やがて各地の海賊集団を配下に置いて盟主となったのです。そこになぜという動機の疑問符が立ち上がります。たとえば中央政府と何かあったのかなど、通説を打破し、「謎」に対して新しい歴史像を打ち立てることは決して容易ではありませんが。

藤原純友の乱は「承平・天慶の乱」と呼ばれていますが、乱の過程を追っていくと承平年間でなく、天慶年間に起きたことがわかりました。そういった研究で藤原純友の乱は「天慶の乱」と呼ぶべきであるとの認識も深まり、教科書にも最近では採用されつつあります。



「歴史学入門（四国遍路入門）」で学生と一緒に歩く



日振島純友記念碑

2: 四国遍路・世界の巡礼研究センターの取り組み

主な活動は①四国遍路の古代から現代までの歴史的

諸相を学際的に解明すること、②多様化しつつある現代遍路の実態を明らかにし、地域の活性化に向けての方策を探ること、③世界の巡礼との国際比較研究を行い、四国遍路の国際的特質を解明することを主目的にして取り組んできました。

Q. 法文学部での四国遍路の授業の学生への反響はいかがですか。

A. 2018年は共通教育「歴史学入門（四国遍路入門）」受講生は約300名でした。授業では希望者を対象に49番札所浄土寺から、50番札所繁多寺、51番札所石手寺を経て、大学まで6.6kmを歩きました。浄土寺で作法通りに般若心経を唱え、各札所の本堂・大師堂の納札箱には納札を納めました。繁多寺ではアイスクリームのお接待を受けるなど、貴重かつ有意義な体験もすることができました。

お接待をうけると不思議と自分だけの為にお遍路を歩いているのではないという気になります。同行二人の意味を考え、日常のギブ・アンド・テイクの世界からエスケープし、見返りを期待しないお遍路の世界を肌で感じることは座学では学べないことです。

そして秋には白衣、金剛杖を身につけて専門教育で25kmの歩き遍路を体験しました（当初は2日で50kmでした）。学生達のなかで友達がいちから歩けたというアンケートもありました。なんでも他人事とおもうような世の中で、長き道を歩く遍路旅で、「他人事を自分事」と思って声をかけてくれる友達に感謝し、あったかな光のようなものを感じてくれるとうれしいですね。

現在、四国4県では産学民官一体となって、四国遍路の世界遺産登録を目指しています。「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向けて、研究者による基調講演や研究発表などを内容とするシンポジウムを開催しています。ぜひご参加をお待ちしています。（四国遍路・世界の巡礼研究センター長 2015年から4年間）



2018年秋の歩き遍路

Q. 先生にとって愛媛というのはどういう場所ですか？

A. 1989年に愛媛大学へ。最初の数年は違和感がありました。3年目くらいからは順応して今では気候は温和でなにより食べるモノが美味しいという愛媛は大好きになりました。かくして住処をかまえ今年で31年。そして定年を迎えます。一意専心、引き続き全力で取り組んでまいります。

（インタビュアー 渡部雅泰）

「ぶんほー」誕生秘話

インタビュー

愛媛大学ミュージアム准教授
大学広報室副室長

徳田明仁



「愛媛大学法文学部創立50周年記念事業」の一環として、法文学部の学生と教職員から、イメージキャラクターのアイデアを募集しました。募集に際して、21作品の応募があり、「キャラクター選考会議・運営委員会」を経て、「ぶんほー」に決定しました。

フクロウ科ミミズクをモチーフに「法文」にちなんでつけられました。グローバルマインドをもって、新たな文化・社会の実現に貢献する、グローバル人材を育成する事を目指す、文系総合学部である愛媛大学法文学部のイメージアップの一翼を担い誕生しました。“鉛筆”を模した翼、“書物”を小脇に抱え、“地球”と愛媛大学のブランドマークの“ドットイー”が描かれた帽子をかぶり首を傾けたりグルリと180度首を回したりする独特の動作にちなんで、「一つの物の見方・考え方にとらわれず、様々な視点から多角的に現実を見て、熟考する」というメッセージもこめられています。

「ぶんほー」は、法文学部人文社会学科1回生(当時)の松尾奈菜子さん原作、愛媛大学法文学部のマスコットキャラクターです。「ぶんほー」を覚えて、愛してくださいね。

作者のイメージを変えないように気遣いながら、手描きイラストの作品をデジタルデータ化した方、愛媛大学ミュージアム准教授で大学広報室副室長も兼任されている徳田明仁先生に色々お話を伺いました。

徳田先生：「ぶんほー」は、原案では手書き正面からのイラストが1枚あるだけでした。そこで、作者(松尾さん)と話し合いを重ね、イメージをできるだけ大切にしながら、側面や背面、頭部の形、尾っぽなど立体物としても必要な形を作っていました。各部のア

イデアができると次に行ったことが色や形の確定作業です。色彩の数値化やラインのデジタル化さらには立体視データづくりといったことまで、表には見えない部分の確定作業までも行い、平面ならびに立体の「ぶんほー」が誕生しました。

▶徳田先生は、2008年に愛媛大学にいらっしゃったそうですね。徳田先生の専攻は、デザイン学(情報デザイン・デザイン思考・展示学・博物館工学・視覚伝達、空間デザインまでに至る)です。

徳田先生：大学の教員になる前は、デザイン会社を営んでいましたので、皆さん私の事をデザイナーだと。解りやすく言うと、情報空間をつくる仕事でした。

▶空間のデザイナーですね。

徳田先生：そのような仕事のうち、博物館をつくる仕事も手がけていました。博物館における情報空間の場合、展示の機能が私の協力出来る仕事になります。展示というのは、翻訳行為(見る人が、どのようにしたら理解できるか)のようなもので、見せ方が必要です。情報伝達は、「情報をどうやって伝えるか?」「どのようにしたら伝わるの



制作の様子(手前=背中から時計回りに牧野大地さん、内藤三鈴さん、枝廣智子さん、土居玲実さん、徳井学さん)



徳田明仁先生

か？」という情報伝達学や情報伝達技術学の分野にも繋がります。私は展示学としてこの分野を研究しています。

▶物事を正しく伝達する事は、難しいですね。「ゆるキャラ」は、キャラクターを介してコミュニケーションの効果アップ・そのものを理解してもらう等、地方自治体でも流行りましたよね。

徳田先生：流行りましたね。

▶国公立大学に博物館はどの位ありますか？

徳田先生：現在、私立を含め200を超える施設があると言われています。

▶愛媛大学には、こんなに良い博物館があるのに、もっともっと知って貰って来て貰いたいと思いますね。ありがとうございました。

「驚きや発見をもたらす空間は、新しい出会いや感動を生み出す。触れる・感じる・発見する、開かれた体感型ミュージアム、知的刺激に満ちた学びの楽しさがここにある。

愛媛大学の学術研究活動に本格的な興味・関心をもっていただくための、楽しく面白く学べる大学博物館です。」（愛媛大学ミュージアムホームページより）

愛媛大学ミュージアムには、素晴らしい展示資料が沢山あります。その上、無料です。岩石や化石・人工ダイヤモンド・昆虫標本・水生生物・ウェッデルアザラシ等々、文系では、年に3回の展示替えがあり、四国遍路や三輪田米山作品、愛媛の歴史文化研究といった多角的内容を展示しています。ミュージアムホームページ等をご覧の上、同窓生の皆さん！是非、愛媛大学ミュージアムに来てください。ミュージアムの傍には喫茶コーナーもあります。

（インタビュアー 和氣坂ハナミ・廣田章子）



「ぶんぼー」バリエーション

「グローバル・マインド」(glocal mind) とは、世界と自分が生きている地域とを有機的全体と捉え、地域の問題と世界全体の問題とを連関させてその解決策を考えようとする心の在り方。glocalは、globalとlocalを合わせた造語。

西日本豪雨災害と 歴史資料の保全活動



法文学部准教授 中川 未来

2018(平成30)年7月の西日本豪雨災害では、古文書や建造物など地域に残る多くの歴史資料(未指定文化財)もまた被災しました。私の所属する愛媛大学法文学部日本史研究室は、2001(平成13)年の芸予地震を契機として伊予史談会などとともに「愛媛資料ネット」を結成し、県内各地で歴史資料の救出、保全活動を続けてきました。今回の西日本豪雨災害に際しても、愛媛資料ネットは大洲市や宇和島市で歴史資料のレスキューを実施しました。ここでは、現在も愛媛大学にて作業を継続中である立間公民館(宇和島市吉田町立間)より救出した歴史資料の保全活動をご紹介します。

「立間公民館資料」に積極的に 関わってきた地域住民

そもそも立間公民館には、公民館で作成・使用していた現用文書類のほかに、旧立間村役場文書、青年団文書、公民館文書、旧立間村村誌編さん委員会が収集した近世文書など多様な来歴をもつ数多くの歴史資料が集まっていました。ここではこれらを一括して、「立間公民館資料」と呼ぶことにします。

現在は宇和島市に属する旧立間村は、17世紀半ばに確定した領域が1880年代末に成立した行政村にも引き継がれ、そのまま1955(昭和30)年まで独立した自治体として存在していました。そこには、貴重な近世文書や明治期の行政文書、絵図、統計類をはじめ、大正期、昭和戦前期、さらには戦後の高度成長期の地域の姿を具体的に示す多くの歴史資料が含まれています。

例えば、宇和島市吉田町は「愛媛みかん発祥の地」として知られていますが、「立間公民館資料」にも『宇和柑橘同業組合事業予定書』(1926年)、『柑橘講演 立間村農会編』(1928年)、『宇和蜜柑購買組合』(1932年)など柑橘生産に関わる資料が存在します。また立間地区は過去にも多くの水害を経験してきました。そのため「立間公民館資料」には、『耕作関係災害復旧並応急施設補助要項』(1935年)、『水害 耕地関係水害復旧事

業計画書』(1943年)、『水害復旧仮日誌』(1943年)など過去の水害と地域の復興に関する貴重な資料も収められています。

このような「立間公民館資料」の収集と保存には、1950年代より一貫して地域住民の方々が積極的に関わってきました。地域の記憶を伝える「アルバム」として歴史資料の重要性が広く認識され、地域で大切に保管されてきたことは非常に重要です。とりわけ近年には、有志の方々により整理と目録化が進められ、地元区長会の協力により虫干しや防虫剤の交換を定期的に実施する体制も築かれていました。地域住民と関係者の努力により受け継がれてきた「立間公民館資料」は、その価値を明らかにして活用へ結びつける段階にあったといえます。しかしその矢先に、西日本豪雨災害が発生したのです。

被害状況と救出・保全活動

2018年7月7日、立間公民館および隣接する立間小学校の敷地脇を流れる立間川の氾濫により、「立間公民館資料」が保管されていた立間公民館も浸水しました。一報を受けた愛媛資料ネットでは、7月12日と翌13日に立間公民館を訪問して被災状況を確認、対応方法を検討しました。資料救出は7月14日から16日に実施されました。



史料の被害状況

立間公民館1階は約180cmの高さまで浸水し、段ボール箱に梱包された資料を配架していた2つの棚のうち、窓際の棚が浮力のため前方に倒れかかり資料が棚から落下、一部は梱包が解け汚泥のなかに資料が散乱している状況でした。具体的には、棚の最上段に配架されていた桐箱37個、段ボール箱19個の計56個は水損せずに無事でした。一方で、棚の2段目以下に配架されていた段ボールのうち、17個は軽微な水損、23個は水損しているものの箱現状は維持、残りは落下して梱包が解け重篤な状態でした。とりわけ1段目に配架されていた資料は流水の圧力を受けて散乱し、汚泥と混じって床に堆積していました。

救出した資料は現地で応急的に整理・洗浄し、梱包したうえで搬出しましたが、その過程では愛媛資料ネットのボランティアをはじめ、多くの地域住民や行政関係者が参加しました。また水損資料の腐敗を防ぐために冷凍施設の確保が急務でしたが、幸いにも伊方町三崎漁協のご協力により施設の使用が認められ、その後保全活動が完了するまでの保管場所として、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（田辺信介センター長）の協力により生物環境試料バンク（es-BANK国末達也バンク長/担当・小川次郎技術専門職員）の施設利用が認められました。8月6日に実施された三崎漁協か



大学への搬送作業

ら愛媛大学への移送と資料の再梱包、施設への搬入には学生や高校生を含む多くのボランティアが参加しました。資料を収めた段ボール箱は、約100個にのぼります。

その後は法文学部日本史研究室で、毎週es-BANKより資料を取り出し、解凍、乾燥、洗浄をおこない、恒久的な保存へ向けた措置を施したうえで、改めて詳細な目録を作成するという地道な作業を実施しており、その過程でも学生をはじめとするボランティアの協力を得ています。また活動全体を通じて、愛媛大学や県内外の博物館、伊予銀行など諸機関、企業や、歴史資料ネット（神戸大学）をはじめとするボランティア組織、また多くの篤志者よりマンパワーや資材、資金面で多大な支援をいただいています。

災害時の歴史資料の保全に 理解と協力を

このように「立間公民館資料」の救出と保全には、資料の保存に携わってきた地域住民の方々をはじめ、愛媛県内外のボランティアや組織が参加しており、それを行政や大学といった公的諸機関が支援するという体制が構築されつつあります。地域とボランティア、行政や企業、そして大学の協業により、地域に残された歴史資料が救出、保全され、その経験を通じて資料の歴史的・社会的価値が広く再確認されたのです。



大学での保全活動

今でも地域には、その歴史を伝える数多くの資料が存在しています。たとえ写真など近現代のものであっても、それは人びとの「記憶」を保存し、地域社会を未来へと繋ぐための大切な財産です。残念ながら現在、自然災害の発生は常態化しつつあります。卒業生の皆さまにおかれましても、災害時における歴史資料の保全に思いをいたしていただければ幸いです。

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学に来られた年
- ② 所属の学部学科
- ③ 研究・専門について



伊藤 浩先生

- ① 2002(平成14)年10月
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 民法・消費者法・環境法

出生地 千葉県匝瑳市
最終学歴 立教大学大学院博士課程後期課程終了
 法学博士(立教大学)
学位・称号 経済学修士
所属学会 私法学会、比較法学会、日仏法学会、日本
 消費者法学会、環境法政策学会、国際比
 較環境法センター、土地法学会中国支部

私が勤務した大学は愛媛大学で3つになります。そ
 の中でも愛媛大学は最も長く勤務しました。父が転勤
 族だったため、千葉県、東京都を転々としていました。
 それまで縁のなかった松山に赴任して、松山が最も長
 く住んでいる都市となりました。

愛媛大学では、契約法、消費者法を中心に担当しま
 した。学生は総じてまじめに授業を聞いていたのが印
 象的でした。ただ、そこから先になかなか進まないとい
 う印象も持ちました。この点については、私の工夫が足
 りなかったのではないかと反省をしています。

ゼミは、制度的な変遷もあって、学生との関係が希
 薄になってしまった時期もありましたが、楽しくゼミを
 行うことができました。法律や判例・学説についての知
 識だけでなく、法的なものの考え方、法の解釈とはど
 のようなことを行うことなのか、ということについて、
 私の考えが伝わったら幸いです。

また、海外に行く機会が多く、数えるのが面倒なく
 らいです。留学していたパリを再訪する機会が何度か
 あり、1度は、帰りの飛行機でトラブルが発生し、18時
 間も缶詰になったこともありました。学会では、土地法
 学会中国支部が中心となって開催している日韓土地法
 学術大会で2年に1度韓国に行きました。そこで報告の
 機会も何度かありました。もっとも印象深いのは、学生
 と一緒にパリ、ディジョン、オセール(Auxerre)を訪
 問したことです。私は付いていっただけと言ってもいい
 かもしれません。英語を母語としない学生と英語でコ
 ミュニケーションを図るというプログラムでした。あまり
 得意でない英語とフランス語を話しているうちに、日
 本語が不自由になってしまい、一時的な失語症のよう
 になってしまったこともありました。

愛媛大学を卒業した皆さんには様々な思い出がおあ
 りだろうと思います。私にも愛媛大学と学生の皆さんは
 様々な思い出を下さいました。あらためて感謝申し上げ
 ます。

竹内康博先生

- ① 2000(平成12)年
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 民法・墓地法

出生地 愛知県半田市
最終学歴 早稲田大学大学院法学研究科博士前期課
 程修了
学位・称号 法学修士
所属学会 宗教法学会、日本法社会学会、土地法学会、
 比較家族史学会など

20世紀最後の年である2000年4月に愛媛大学に赴
 任し、国家公務員となりましたが、独法化に伴い国立
 大学法人の職員となり、2019年3月に無事定年退職を
 迎えることができました。赴任当時、高校1年と中学2
 年であった息子も、社会人となり良き伴侶を迎え、そ
 れぞれが2人の子宝にも恵まれました。私は4人の孫の
 ジイジとして、30数年前とは様変わりしてしまった育
 児を横目で見ながら、孫たちに遊んでもらっています。

愛媛大学での19年間には、さまざまな思い出があり
 ますが、特に印象に残っていることは、ゼミ生の皆さん
 と卒論合宿でいろいろな所を訪れたことや、フィールド
 ワークを担当した年の墓地調査合宿です。別府・湯布
 院合宿から始まって、岩城島、津和地島、小豆島、高
 知市、愛南町(一本松)、西予市(城川)、宇和島市、
 今治市(湯ノ浦)、西条市(小松)など、それぞれに思
 い出が詰まっています。

ゼミの卒論合宿では、発表後の緊張から解放された
 夜の懇親会で、研究室とは違った顔を見せるゼミ生に
 新たな発見をしたりもしました。墓地調査合宿では、
 夏の暑さと格闘しながら墓石の文字を写し取るなどの
 過酷な場面もありましたが、皆さんの長い一生の中
 でも二度と味わうことのない体験になったのではないかと
 思います。

現在は1年間の契約で愛媛大学特命教員として法文
 学部で不法行為法と物権法の講義を担当しています。
 予定では、来年の3月には故郷である愛知県半田市に
 20年ぶりに帰り、研究テーマである墓地法の知識を生
 かし、「終活コンサルタント」として社会貢献に携わり
 たいと考えています。



2018年OB会にて

松井隆幸先生

- ① 1999(平成11)年
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 国際貿易論

出生地 大分県

最終学歴 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程
経済政策学専攻修了

学位・称号 経済学修士

所属学会 日本国際経済学会、日本貿易学会



国際貿易論基礎演習
(御幸山にて、筆者右端)

私は幼少の頃より、瀬戸内海と豊後水道の分岐をなす速水瀬戸(豊予海峡)の潮の流れを鎮めるとされる神剣をご神体とする早吸日女神社に、よく初詣に行っていました。夏には佐田岬半島を眺めながら海水浴を楽しんでいましたが、間近に見える佐田岬をずっと遠い存在にしているそんな速水瀬戸を子どもながらにいつしか恨めしく思ったものでした。

年月は流れ、前任校の福岡大学で十余年を過ごしたのち、平成11年に単身で松山にやって来ました。愛媛大学に赴任するまでは四国自体まったく縁のなかった私は、福岡大時代にガイド付きのバスを一台借り切り、ゼミ4回生と一緒に四国一周の卒業旅行と洒落込みました。もう二度と来ることもないだろうなあと哀愁にふけていたところ、その2年後にしっかり愛媛大学にお世話になることになった次第です。あれから20年間の単身赴任生活があったという間に過ぎました。

愛媛大学の在職期間はそう長くはありませんでしたが、例えば毎年恒例の「いもたき」、医学部の解剖体慰霊祭、アロサウルスの骨格標本の展示(愛大ミュージアム)、農学部植物工場見学、城北キャンパス「メイプルプロムナード」の紅葉ライトアップ、ノーベル物理学賞受賞の中村修二氏による講演会(2015.11.9)など思い出は尽きません。

なかでも、定年退職を目前にして法文学部同窓会提供講座のお世話をさせていただいたことは、私にとって卒業生の方々と貴重な出会いの場となりました。さまざまな業種でご活躍のOBの方々の話をお聞きして、これまで教育現場に携わってきた私には誇らしく思えました。また、卒業生みなさんが母校愛大をこよなく愛していることも言葉の端々にうかがい知ることができましたし、先輩たちの生の声を目の前で聞く機会に恵まれた後輩の受講生諸君が羨ましくさえ感じました。そんな私も気が付けば、いつしか法文同窓会の隠れファンになっていました(笑)。

どうかこれからも法文学部の卒業生と在学生在が共に密に連携し合い、より一層魅力ある学部づくりと同窓会活動に尽力されますよう祈念いたします。



清水 史先生

- ① 1986(昭和61)年
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 日本語学

出生地 神奈川県横浜市

最終学歴 國學院大学大学院文学研究科博士課程後
期単位取得退学

学位・称号 文学修士

所属学会 日本語学会、日本言語学会、訓点語学会、
日本中国語学会等

縁あって愛媛に来て、爾来、30余年の年月を重ねこの3月に無事に定年退職を迎えました。振り返ってみると長いようで短い楽しい時間を学生諸君とともに過ごせたことに感謝しています。

私の専門は言葉の研究です。フランス語学から始まって日本語学、中国語学と興味の赴くままに研究をしてきました。何をしても楽しい若かったその時期に、実は冷や汗が背筋を伝わる経験をしたのです。それは伊予弁とはじめて出会ったときのことでした。愛媛への赴任が決まったものの松山で何語が話されているのかについて、当時の私には全く関心がありませんでした。でもだんだんその時期が近づいてくるにつけ、言葉の研究者としては現地の言葉の特徴ぐらいは掴んでおくべきだろうと思い、某局から愛媛の方言テープを取り寄せました。研究室で初めて耳にした伊予弁は新鮮というより全く何をしゃべっているのか分からなかったのです。耳に残るのは「ジャージャー、ケンケン」なんだこれかと思いました。こんな言葉が話されているところで果たして大丈夫だろうかと不安を抱きながら、とりえず東京からフェリーに乗って高知へ着くと今度は「チューチュー、キーキー」という声が耳に飛び込んでくるではありませんか、背筋が寒くなりました。

愛媛で生活をするようになってからはもう毎日がカルチャーショックの連続でした。初めての授業の日、1限目の演習だったので朝早く家を出たときのこと、掃き掃除をしていたおばあちゃんに「お早うございます」と言ったら「お早うございました」という返事。これを聞いた途端に一日が終わったような気になりました。それを皮切りに次々といろいろな方言事例と出会いました。奈良時代の言葉やら平安時代のあの源氏物語に出てくる言葉がポンポンと話されているではありませんか。研究者としてはよだれが出っぱなし、豊かな伊予弁と触れあえてとても幸せでした。みなさんのおかげで楽しかった。だんだん!

愛媛大学法文学部同窓会 本部新理事(2019~2021) 支部理事一覧

	氏 名	卒年・学科	勤 務 先	
会 長	西 田 和 眞	1973 法	税理士	新任
副 会 長	渡 部 雅 泰	1985 経	クレストデジタルズ(株) 代表取締役社長	新任
	松 本 長 彦	1981 文哲	愛媛大学 愛大ミュージアム館長(法文学部教授)	
事務局長	鳥 生 勉 歳	1989 文地	アマノ印刷 営業部副主任(出版部エディター)	再任
理 事 【法】	久 保 泰 敏	1974 法	愛媛大学 法文学部就職相談室	事務局
	森 敏 明	1976 法	愛媛県動物園協会 常務理事	
	畠 中 節 男	1979 法	四国アライアンス証券(株) 監査役	新任
	辻 正 道	1982 法	(株)フジ 店舗開発部 シニアマネージャ	
	藤 田 育 子	1982 法	幸法律事務所	
	赤 松 英 輔	1990 法	愛媛新聞社 編集局整理部 副部長	
	野 崎 明 子	1993 法		
	梶 原 克 彦	1995 法	愛媛大学法文学部准教授	新任
	野 本 学	1996 法	JA愛媛中央会 地域農業対策部	
	大 萩 健	1998 法	松山市役所 公営企業局契約管理課	
	西 村 美 幸	2000 総政	四国税理士会 愛媛県支部連合会	新任
	安 永 博 邦	1973 経		
理 事 【経】	玉 井 周 平	1978 経	アイサービス・玉井事務所	
	高 田 敬 士	1980 経	愛媛県社会福祉協議会 愛媛県地域支え合いセンター コーディネーター	
	黒 河 安 徳	1986 経	JA愛媛中央会 組織広報部長	
	杉 田 栄 治	1987 経	愛媛県庁 総務部職員厚生室長	
	大 西 孝 史	1999 経	松山市 保健福祉部介護保険課 主査	新任
	重 松 直 江	1994 経	重松直江税理士事務所	新任
	土 井 明 人	1998 経	(株)アサヒジム 代表取締役社長	
	渡 邊 久美子	2003 総政	松山商工会議所 総合企画部総合企画課 企画係長	新任
	大 石 祐 貴	2006 総政	愛媛県勤労会館ピュアフル松山 業務執行理事 支配人	新任
	渡 部 文	2007 総政	NPO法人 ワークライフ・コラボ	新任
理 事 【文】	廣 田 章 子	1966 文国		
	穂 岡 謙 治	1968 文	聖カタリナ大学 非常勤講師	
	山 本 求	1979 文史	大学生協中国四国事業連合 理事	
	安 藤 あさみ	1979 文独		
	中 島 邦 雄	1984 文史	日本料理すし丸 専務取締役	
	村 上 和 恵	1989 文		
	小 林 紀 子	1989 文英	愛媛県立みなら特別支援学校	
	和氣坂 ハナミ	1996 文	愛媛大学法文学部研究補助員	
	秋 山 英 治	2000 院	愛媛大学法文学部准教授	新任
監 事	熊 谷 広 行	2001 院	済美平成中等教育学校	
	吉 岡 寿 治	1974 法	愛媛銀行 顧問	
	信 宮 俊 紀	1986 法	伊予銀行 事務集中センター 課長	新任

東京章光会

役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科
会 長	阿部 仁	1976 法	監 事	三宅 一夫	1968 経	幹 事	芝崎 尚史	1999 法
副 会 長	荒木 雅弘	1976 法		三村 藤明	1977 法		庵下 智洋	1999 法
	森脇 孝典	1979 経	幹 事	河田 新一	1963 経	顧 問	大西 盛美	1954 法
幹 事 長	清水 栄治	1981 法		宮本 潔	1968 法		高田 恒夫	1957 経
幹事長補佐	浅野 実	1982 法		西岡 真吾	1970 経		森田 正	1958 法
事務局長(兼務)	荒木 雅弘	1976 法		西迫 和則	1983 経		松岡 勝博	1963 法
事務局長補佐	大村万夢里	2008 総政		田中 英三	1983 法		高崎 泰典	1968 経
会計担当	白石 幸樹	1987 経		安岡 博美	1993 文英		太田 重明	1968 法
会計担当補佐	橋本 京子	1977 法		森原 寿宣	1994 法			

関西にきたつ会

役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科
顧 問	後藤 幹郎	1960 法	会 計	岸川 良蔵	1979 文独	幹 事	天羽 茂喜	1970 法
	大久保貴太郎	1962 法		山岸 治	1973 法		島田 光照	1979 法
	和田 哲治	1968 法	事務局長	赤星 勝	1968 経		居林 順二	1995 経
会 長	岡本 正明	1967 法	事 務 局	合田 文男	1970 法		吉富 太郎	1998 法
副 会 長	平田 篤資	1968 法		坂本 維之	1966 経		中西 龍太	1999 法
	安藤 雅夫	1957 経		細川 浩希	1968 法			
	澤井 達夫	1972 法		前田 拓	1970 法			

広島支部

役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科
支 部 長	岡田 禎之	1965 文乙	幹 事	村上 道機	1968 文乙	幹 事	大西 慎也	2006 総政
副支部長	難波 宜久	1987 法		梶原 勝	1988 経	顧 問	竹本 義昌	1958 文乙
事務局長	品川 瑞	1993 法		松本 亜紀	1993 法		楠本 淳	1960 文乙

四国支部

役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科	役 職	氏 名	卒年・学科
顧 問	井手 康夫	1953 文経	事 務 局	久保 泰敏	1974 法	幹 事	河内 泉	1978 法
	前田 繁一	1955 文法	事務局、監査補佐	和氣坂ハナミ	1996 文		竹本 道代	1978 法
	白石 隆	1956 文法	監 査	渡部 浩三	2008 院		山下 忍	1978 法
	仙波 太郎	1959 文史		西田 和真	1973 法		花井 和司	1979 経
	森 孝明	1968 文独	幹 事	廣田 章子	1966 文国		松本 長彦	1981 文哲
	小池 昭彦	1970 文経		毛利 修三	1967 文理法		村上 和恵	1989 文
支 部 長	宇都宮真由美	1973 法		平良 稔	1968 文経		尾崎 主幸	2000 法
副支部長	玉井 周平	1978 経		亀岡 謙治	1968 文		寒作 典員	2000 総政
	中島 邦雄	1984 文史		兼久 良二	1970 文経		上田 盛敏	2003 経
事務局会計	白井 瞳	1964 文国		池川 孝文	1972 法		大石 祐貴	2006 総政
事務局長	鳥生 勉歳	1989 文地		菊地 久男	1975 法		遠藤 佳春	2011 総政

法文学部人事異動

(2019年4月1日付)

講 座 名	氏 名	職 名
▶社会科学講座	伊 藤 浩	教 授 (特命教員)
	竹 内 康 博	教 授 (特命教員)
	松 井 隆 幸	教 授 (特命教員)
	太 田 響 子	准教授 (昇任)
	新 関 剛 史	准教授 (昇任)
▶人文学講座	田 中 尚 子	教 授 (昇任)
	清 水 史	教 授 (特命教員)

2019年4月 3文系全学研究センターを設置

2019(平成31)年4月1日、愛媛大学社会連携推進機構の中に「四国遍路・世界の巡礼研究センター」「俳句・書文化研究センター」「地域共創研究センター」という3つの文系全学研究センターが設置されました。「四国遍路・世界の巡礼研究センター」は、法文学部を母体として、法文学部附属センターから全学センターに格上げされたものです。

「俳句・書文化研究センター」は、教育学部を母体として新たに設置されました。「地域共創研究センター」は、法文学部を母体として設置されていた地域創成研究センターを、社会共創学部を母体とする研究センターに改組したものです。



御寄付ありがとうございました。(2019年3月末現在)

愛媛大学法文学部同窓会への寄付のご協力に心より御礼申し上げます。2018年4月～2019年3月末時点までに御寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに御芳名を掲載させていただきます。

なお、御芳名の掲載については、同意をいただいた方のみとなっております。

その他多数の皆様からの温かい御支援を頂戴し、深く感謝申し上げます。

【ア行】

青木 茂	赤瀬 晃也	赤松 慶和	穂岡 謙治	浅山 博志	足立 淳正	安達 正人	安藤あさみ
五百木達治	五百木洋子	猪川絃佐久	井川ちづ子	池内 陸子	池内 泰夫	池川 孝文	池田 正幸
石井 清司	石川由紀子	石川 陽子	石住 勝憲	石住 泰子	石田 忠勝	板橋 俊夫	井手 満
伊藤 眞平	井上 弘	猪熊 兼年	今井 愛子	今井 明美	今村 威	岩崎太久美	岩崎 俊夫
上田 将輝	上田 嘉子	上野 善康	上松香代子	氏原 靖視	後川 統	内田 昌平	宇都宮眞由美
卯野 康一	江藤 良弘	江村 洋二	遠藤 佳春	大石 敏広	大岩 義雄	大串近太郎	大島 敏子
太田 敏郎	大西 盛美	大野 充彦	岡 靖子	岡崎久美子	小笠原 均	岡田 和雄	岡田 孝
岡田 禎之	尾川原寛次	岡村 朋哉	奥田 仁之	小野 俊二	小野 清二		

【カ行】

戒能 博樹	鹿島 勝	片岡 修	片岡 正雄	方山 義昭	葛城 弘幸	加藤 誠	加藤 昌
加藤 好文	門田 悟	門田 仁	兼久 良二	蒲池 正宏	亀岡佳奈美	栢原 壽一	川上絵梨香
川上 直美	川島 聡	川西 勉	菅 共子	閑治谷裕子	菊地 久男	菊地みのぶ	岸田 和昌
北澤 卓	城戸 義文	木場 公男	木原 高治	客坂 美香	刑部八州男	忽那 哲	國枝みつよ
國元 通生	久保 出美	久保チズエ	久保 泰敏	熊石 康生	栗林 良樹	黒河 明保	黒河 安德
黒田 彰三	桑原俊太郎	小池 昭彦	小池 寿美	上里 文磨	高田 健作	合田 文男	河内 泉
小崎 弥生	小林 紀子	小林 秀行	五味 俊一	近藤 中子	近藤 安彦		

【サ行】

齋藤 匠	齊藤 博子	佐伯 和信	佐伯 弘行	酒井 雅奈	坂田 せい	坂田 隆	坂本 伸一
坂本 哲巳	坂元 陽介	坂和 守廣	佐々木乾二	笹木 茂	佐々木珠希	笹島 彰	佐野 章雲
塩見 裕司	直原 通治	直原 基壬	芝 昭彦	芝崎 尚史	瀧川 武彦	清水 京子	清水 秀一
清水富美枝	下向井敏明	白井 瞳	白石 勝久	白石 圭二	白石 崇	白石 隆	白石 時子
白石 朋広	白土千奈見	塩飽 義久	神野 友美	杉野 原史	杉本 英智	鈴江 政明	鈴木 大輔
炭谷 憲一	住友 恵次	清家 丈裕	清家 信孝	仙波 太郎	園部 忠		

【タ行】

田井野 勝	高内 文保	高木 正明	高須賀 亮	高杉 晃吉	高田 敬士	高田 正義	鷹取一三郎
高橋 哲也	高橋 寛	高畑 章	高山奈緒子	悦子 悦子	田口 基文	田口 康彦	竹内 安代
武田 信	竹田 美喜	武智 義和	橋中 健司	良典 良典	伊達 栄治	楯岡 敏彦	田中 眞一
田中 節子	田中 忠	田中 主税	俊光 俊光	利弘 利弘	谷野多枝子	谷本 須美	田吉 朗
田畑 栄造	玉井 周平	玉井 靖彦	月原 信夫	朋美 朋美	堤 紘司	手嶋 仁	寺澤 徹哉
土井 明文	土井 脇 稔	得能 修	友近 幸子	鳥生 勉歳			

【ナ行】

中 祥子	中居 憲吾	長尾 隆司	中川 芳美	中下 健次	中島 邦雄	中町 学	成清 寿一
西上 恵子	西上 三鶴	西岡 真吾	西岡 道雄	西岡 倫弘	西川加奈江	西田 和真	西村 一嘉
仁田 一也	二宮 修二	野口 裕久	野坂 正照	野本 学	乗松 眞二		

【ハ行】

芳賀 輝明	橋本 治代	馬場 聖樹	濱田 和子	濱松 一良	林 克彦	原 隆司	原 眞智子
張本 雅宣	坂東 梅生	桧垣 晴美	樋口 政治	日高 栄司	日野 恵一	日山 里美	日山 正人
兵頭 厚子	平野 嘉成	廣田 章子	深坂 穰	福本奈緒美	藤岡 達夫	藤岡 裕士	藤田 育子
藤田 邦行	藤田 佑二	藤野 滋	藤本イツ子	藤本 康城	藤脇 祐二	藤原 誠司	二神 幸恵
船田 義文	保科 昇	細川 述一	堀田 深山	堀井眞由美	本田 公子		

【マ行】

前川 浩志	前田 健次	正岡 潔	増田 甫夫	松浦 泰史	松田 三郎	松田 妙子	松田 敏幸
松永 徹	松村 香菜	松村 誠治	松室 龍彦	松本 長彦	水田 實	光石 宏	光田 正
水口 寛	宮川 晶子	宮本 忍	三好 博巳	三好 裕美	村上 慎吾	村上友紀子	毛利 修三
森 健一	森 浩平	森 幸子	森 春美	森岡 芳洋	盛田 隆	森田 正	門田 麻希

【ヤ行】

保田 和磨	安永 博邦	八塚 洋	柳田 耕生	矢野 正平	山内 千代	山口 耕平	山口 武雄
山口 信夫	山崎 薫	山田 光彦	山根 勝美	山本 砂織	山本美知子	山本 求	横川 修
横山 弘道	吉岡 寿治	吉村 和平	吉本 政弘				

【ワ行】

若江美千子	渡部 邦昭	渡邊 幸子	渡部 俊次	渡邊 律子			
-------	-------	-------	-------	-------	--	--	--

(50音順・敬称略)

[2019.3.31現在] 1,800,512円 寄付者総数361人(内、匿名希望37人、掲載可324人)
 [2018.3.31時点] 2,023,500円 寄付者総数404人(内、匿名希望42人、掲載可362人)

愛媛大学法文学部同窓会理事会報告

2018年度 第2回(通算第75回)理事会

日 時：2018年10月12日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：29名

【報告事項】

1. 第9回ホームカミングデイについて
2. 第22号会報発行
3. 2018年度同窓会提供講座「社会と人間」
4. 支部活動・支部長会など報告と予定
5. 大学関係行事、会長会・校友会理事会など報告と予定
6. 会員名簿発行について
7. 事務局体制の変更について
8. その他

【審議事項】

1. 第15回本部総会について → 承認されました。
2. 次期三役・理事について → 承認されました。

2018年度 第3回(通算第76回)理事会

日 時：2019年2月8日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：19名

【報告事項】

1. 2018年度同窓会提供講座「社会と人間」
2. 2019年度会報編集委員会スタート
3. 支部活動・支部長会など報告と予定
4. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
5. 寄付について
6. 2018年度決算(暫定)について
7. 会員名簿発行の進行状況と名簿編集委員会について
8. 同窓会60周年記念事業(グッズの作成)について
9. その他

【審議事項】

1. 2019年度の活動計画 → 承認されました。
2. 2019年度予算案について → 次回理事会に再提案します。
3. その他

2019年度 第1回(通算第77回)理事会

日 時：2019年6月7日(金) 18:00～21:00

場 所：すし丸本店(松山市二番町2丁目3-2)

出席者：26名

(吉田法文学部長、塩出法文学部事務課長にご臨席いただき、学部と同窓会の親睦を深めました)

【報告事項】

1. 第23号会報編集委員会報告
2. 2019年度提供講座について
3. 支部活動・支部長会など報告と予定
4. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
5. 同窓会員 会員数報告

2018年9月卒業生	学部生	10
2019年3月卒業生	学部生	522

【内訳】

	男	女	計
総合政策学科	127	205	332
人文学科	58	132	190
総 計	185	337	522

【総計】

文理学部19年(1953年～1971年)	2,222
法文学部48年(1972年～2019年)	20,011
計	22,233

2019年4月 法文学部入学者数

【内訳】

	男	女	計
人文社会(昼)	107	170	277
人文社会(夜)	37	53	90
総 計	144	223	367
3年次編入	18	11	29
法文学研究科	9	9	18

6. 会員名簿発行の進行状況
7. 同窓会60周年記念事業について
8. 同窓会事務所の整理・移転について

【審議事項】

1. 2020年度法文学部同窓会提供講座の開設について → 承認されました。
2. 愛大基金への寄付について → 承認されました。
3. 2018年度決算・監査報告
 - 1) 会費収入は、予算を16万円下回り、786万円にとどまりました。利子収入が約1万円、総会の四国支部負担金が約8万円、寄付金の繰り入れが約124万円で、合計918万6,349円です。
 - 2) 支出に関しては、ほぼ予算通りの執行となりましたが、ホームページのリニューアルによって、雑費が4万円ほど増えています。また、11月11日の総会・懇親会費用が約37万円、愛媛大学基金への寄付が100万円、法文学部50周年記念行事への寄付が200万円となっています。
 - 3) 寄付金の収支については別表にまとめていますが、収入が約180万円、支出は活動支援のため100万円を同窓会予算に繰り入れて約128万円となりました。
 - 4) 5月16日(木)に、吉岡監事・信宮監事により監査を行いました。 → 承認されました。
4. 2019年度予算案について(再提案)
 - 1) 収入は、寄付金からの繰入金100万円を含め887万円程度が見込まれます。支出については、ほぼ昨年度の額を踏襲していますが、10月からの消費税増加分を見込み、大学への寄付金を含めて884万円程度で、単年度黒字になる予算を組んでいます。
 - 2) また、9月に予定している名簿発行経費として、(株)サラトに支払う50万円を単年度の別枠で、さらに同窓会60周年記念事業への支出を200万円計上して、支出合計は1,133万7,000円を予算化しています。 → 承認されました。
5. 2019年度の活動計画(再提案)
 - 1) 同窓会報は、同窓会員への大学・学部・同窓会活動の紹介や会員相互の情報交換の場として、9月発行を目指します。同時にホームページの充実を図ります。
 - 2) 支部活動の活性化を重視し、本部・支部間の交流および支部総会への出席者を増やすための対策を検討します。
 - 3) 同窓会提供講座を充実させるとともに、学生の就職活動に対応したサポートができるよう、現役学生との繋がりを広げます。
 - 4) 会員からの寄付も活用して、同窓会活動をより活性化し、法文学部学生支援事業を充実させます。
 - 5) 同窓会名簿の精度を高め、9月の冊子体の名簿発行に万全を期します。
 - 6) 日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。
 - 7) 同窓会60周年記念事業として、記念グッズなど名簿発行以外の事業も検討を進めます。 → 承認されました。
6. 寄付金の各支部への分配について

寄付金を寄せていただいた方の中で、各支部への分配を希望される方の寄付金については、半額を希望の支部へ分配するようにしたいと考え提案いたします。 → 承認されました。

愛媛大学開学70周年及び第10回ホームカミングデイ合同記念式典

愛媛大学は今年、開学70周年を迎えます。例年は創立記念日近くの土曜日に学祭とホームカミングデイを開催していましたが、今年は平日の11月11日(月)に合同記念式典と合同祝賀会が開催されます。

合同記念式典

日 時：**11月11日(月) 15:00 開式**

場 所：**ANAクラウンプラザホテル松山
南館4F エメラルドルーム**

※合同記念式典は招待制です。

合同祝賀会

日 時：**11月11日(月) 18:00 開式**

場 所：**ANAクラウンプラザホテル松山
4F ダイヤモンドボールルーム**

※要事前申込(会費5,000円)



※合同祝賀会に参加希望の方は、愛媛大学総務部総務課(089-927-9014)へお問い合わせください。

愛媛大学校友会をご存じですか？

愛媛大学校友会はすべての学部を根を越えて組織された団体で、同窓生をはじめ、学生及びその保護者、現職及び退職の教職員を会員として、平成16年に設立されました。

校友会は、①学生サークルへの援助 ②就職活動旅費の支援 ③留学渡航費の支援 ④学生図書への寄贈 ⑤入学生・卒業生への記念品贈呈 ⑥子規俳句カレンダーの作成 ⑦新社会人の歓迎会など、主に学生支援事業を行っています。

また、同窓生が主体となって組織された首都圏支部・近畿支部・中国支部では、講演会や懇親会を開催し、皆さんの参加をお待ちしています。

同窓生の皆さんは既に校友会員ですが、会員情報のご登録がないと大学の近況や校友会報の送付、校友会イベントのご案内が出来ません。是非、下記によりご登録いただき、校友会活動にご参加くださいますようお願いいたします。

〈愛媛大学校友会事務局〉 <http://koyu.ehime-u.jp/>
〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2F
TEL:089-927-8610 E-mail:office@koyu.ehime-u.jp



愛媛大学基金セミナー開催のお知らせ

愛媛大学『相続・遺贈』セミナー ～今から考える相続対策～

1. 日 程 令和元年11月27日(水) 14:00～16:00
2. 会 場 愛媛大学城北キャンパス
校友会館2階 サロン
3. 定 員 50名(先着順、要予約)※参加料無料
申込締切 11月8日(金)
4. 講 師 主席財務コンサルタント(三井住友信託銀行松山支店)

※詳しくは愛媛大学基金HPをご覧ください。

(<http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/>)



☆お申込・お問い合わせ

愛媛大学基金室 TEL:089-927-8346 FAX:089-927-9025 E-mail:kikin@stu.ehime-u.ac.jp

法文学部創立50周年記念事業に関する 学生アンバサダーの活動について



井町 菜月

(平成31年3月人文学科卒業)



私たち学生アンバサダーは、2017年の秋から2019年3月までの約1年半、法文学部の創立50周年記念事業に学生の立場から関わってきました。期間内に行った活動は多岐にわたり、すべてを紹介することはできませんが、いくつかご紹介します。

2017年冬、50周年記念品の作成に携わり、エコバッグとクリアファイル2種のアイデアを出し合いました。完成した記念品はおしゃれで遊び心のあるものとなり、記念品を受け取った先生方、学生からの評判も上々でした。

また、法文学部創立50周年とこれを記念して誕生した法文学部のマスコットキャラクター「ぶんぼ」の周知のためにおこなった2018年4月の「ぶんぼお披露目会」及び10月の「ハロウィーンイベント」も強く印象に残っています。学生アンバサダーとして最初の仕事は、法文学部マスコットキャラクターの選定でした。学生アンバサダーの投票結果がそのまま認められて選ばれた「ぶんぼ」を、そして法文学部創立50周年を広く知ってもらうにはどうすればよいかを考え、学生にも親しみをもってもらえるような二つのイベントを企画しました。お披露目会は「ぶんぼ」初披露の場となったことに加え、学生アンバサダーの追加募集を行い、新たに1、2回生のメンバーが加わったとい

う意味でも思い出深いです。

ハロウィーンイベントでは、創立50周年を伝えるチラシと共にアンバサダーがデザインした「ぶんぼ」飴を食堂前で配布し、法文学部関係者以外に対しても



卒業式祝賀会にて(2019年3月25日)

宣伝を行いました。

他にもオープンキャンパスや土曜夜市にも参加し、50周年記念事業の広報活動に協力しました。また、11月の「創立50周年記念式典及び記念祝賀会」にも「ぶんぼ」と共に出席し、法文学部の卒業生や先生方といった他の出席者の方々と50周年を祝いました。そして、記念行事を締めくくるイベントとして2月に「法文学部創立50周年記念 教員・学生交流会」を学生アンバサダー主催で実施しました。この交流会は、50周年を機に法文学部の教員・学生間の交流をより活発にしていきたいという意見がアンバサダーの企画会議の中で何度も出ていたことがきっかけとなり、実現しました。交流会は19名の教員と約80名の学生が参加し、

大盛況な会となりました。

これらの企画は、一筋縄ではいかないことも多々ありましたが、結果的にはすべて成功したといえるでしょう。50周年という節目の年に在学でき、その記念事業に深く関わったことは、学生アンバサダーを経験した21名にとって学生時代の大きな思い出と成長の場となりました。活動を通じて身についた「社会人基礎力」は今後の人生でも存分に活かせるのでは、と思っています。

最後に、法文学部同窓会からのご支援がなければ、学生たちの自由な発想に基づく数々の企画は実現しませんでした。心から感謝申し上げます。



法文学部創立50周年記念 教員・学生交流会(2019年2月)

2006年卒業 一色 淑恵 [総合政策学科]

卒業して14年。縁あって、法文学部同窓会の提供講座で登壇する機会に恵まれ、懐かしいキャンパスへ足を踏み入れると色あせない当時の記憶がよみがえります。

入学当初、ちょっと強引だけど憎めない、とっても陽気な落語研究会(通称:オチケン)の先輩たちのマジックにかかった私は、吸い寄せられるように入部していました。



一回生の夏、初めての寄席(左)

寄席に向けた練習合宿。大喜利や落語を必死で練習する部員たち。アムラーファッションの名残りを色濃く残し、茶髪で細眉ギャルが和の文化に足を突っ込むとは、まったく想像していませんでした。

内子座での寄席や笹まつりで盆踊り。県外の大学との寄席など盛りだくさん。目まぐるしい日々を、夢中で走り抜けました。落語や寄席にかかわる中、噺家さんが高座に上がるときに舞台袖で演奏される寄席囃子に魅かれ、三味線もお稽古するように。以来、お稽古は私のライフワークとなっています。



長唄の演奏会にて(右から2人目)

オチケンの活動は、部活動の枠を越えて、情報バラエティ番組のレポーターになるきっかけをもらいました。「表現すること」に心を砕いたレポーター活動は、誰かの思いや考えを届けたい相手に伝える役になりたいと、就職は地元の大手印刷会社へ決めました。

営業部に配属された私の仕事は、地元企業の広報ツールの作成や、自治体のプロモーションのサポート。企業や自治体の困りごとを丁寧に聴く姿勢を大切に、消費者目線を忘れずに営業活動に励みました。仕事の大小にかかわらず、お客様との連携は仕事を進めるうえで団結力を高めます。無事に終えた達成感は格別でした。

11年の勤務の間には結婚、2度の育児休業を取得しました。営業部初の育児休業ということもあり、仕事と子

育ての両立については、周囲との温度差など様々な葛藤を感じていました。育児休業後の働き方や、仕事との両立について情報収集するなか、働く人を支援する活動をしているNPO法人ワークライフ・コラボ(以下ワーコラ)に出会いました。座談会や勉強会で、仕事と子育てに悩む女性たちとのふれあいは、自分の居場所のように感じ、その後、事業コーディネーターとして、働く女性たちを支援する仕事に就くことにつながります。

ワーコラでの仕事で大切にしていることは、働く(働こうとする)女性たちと、同じように迷ったり悩んだりしながら一緒に歩みを進めていける、親しみやすく安心できる存在でありたいと考え行動することです。

ワーコラの活動は、女性活躍、次世代育成、働き方改革の3つの軸で事業を展開しています。働く人はもちろん、若者、一步を踏み出そうとする女性、そこでは変化し続けるすべての人に出会い、地域のロールモデルが一步先を進んでくれています。



幼稚園での読み聞かせの様子(左)

プライベートでは、娘たちが通う幼稚園での絵本の読み聞かせ活動や、オチケン以来の三味線を続けています。幼稚園での読み聞かせは、園児たちの人気をとるべくオチケンの意地を見せます。ところが園児たちの反応はいつも想定外。子どもたちの心を揺さぶるまでは、まだまだ下積みが必要です。

三味線はというと、年に一度の演奏会でのお披露目を目標にお稽古に励んでいます。娘たちの励ましと、演奏会で異世代の方々とかかわりが大きなやりがいとなっています。

仕事もプライベートも、楽しむこと・チャレンジすることがモットーの私を娘たちはどう思っているのか……。彼女たちの将来の選択に少なからず影響があるかと思うと、自分自身のキャリアも模索中。「こんな働き方をしたい、こんな子育てがしたい」と、今思っていることを大切に、柔軟さも受け入れながら、「わたしらしく」を探していこうと思います。



大好きな家族と

2000年卒業 宇都宮陽一

[総合政策学科]

私は現在、公的な地域経済団体である松山商工会議所に勤務し、地域の発展並びに地域企業の発展のため、様々な業務を行っており、とてもやりがいを感じています。商工会議所について、あまりなじみがないかもしれませんが、業務は皆さんに身近な簿記や珠算などの各種検定試験、真夏の大きなイベントである松山まつりなどがあります。また、事業を行っている方には融資・共済・補助金・販路開拓支援・各種セミナーなど多岐に渡っており、職員一人一人の担当業務も多く大変さもありますが、その分やり遂げた際の達成感・充実感はより大きく、商工会議所の会員となっていていただいている個人事業主様、法人事業所様に喜んでいただくことが何よりもうれしいことです。そして、産学官連携事業や販売・会計プロフェッショナル養成講座などにおいては、法文学部、工学部の先生方、学生さんのご協力をいただいております、大変感謝しております。

さて、学生時代の話になりますが、ちょうど私が入学時に経済学科と法学科が統合され総合政策学科が創設されたため、光栄にも総合政策学科の1期生となります。数年前に、残念ながら総合政策学科は学部再編によりなくなりましたが、法律・政治・経済・経営・国際関係などの社会科学の科目を幅広く勉強できる学科で、とても魅力的なものでありましたし、様々なことを学べたことは誇りに思っています。

その中でも生活に身近であることから、特に法律（民法）に興味を持ち、熱心に勉強に取り組みました。ゼミも民法を専攻し、すでに退官された三島宣也教授から債権や債務、契約のことなどを楽しく学ぶことができました。また、当時、勉強したことが活かせると思い、通信教育で行政書士の資格取得も目指しました。結局、受験はしませんでした。当時勉強した内容は、現在の仕事でも大いに役立っていて、無駄ではなかったと思います。

学生時代に印象に残っていることとして、フィールドワークの授業では、社会福祉協議会の方にご協力いただき、北条の海辺で障害を持った方々と交流する機会をいただきました。その中でも特に、全盲の小さな女の子と遊んだ時は、様々な感じる事が多く、本当に貴重な経験をさせていただいたと思います。当時は、まだパソコンや携帯電話が普及し始めた頃でしたので、今の世の中と比較すると、急激な変化に驚かされます。メールで送れる文字数も限られていたり、携帯でのやりとりも専ら通話で、夜中に2〜3時間電話することもよくあり、耳が痛くなったことも懐かしく感じます。今はSNS等の普及で本当に便利な世の中になったものです。

授業や休憩時間、食事などはいつも友人たち3〜4人で行動をともし、よく飲み会やカラオケをしていました。社会人となった今でも、当時のメンバーで飲み会などを開催し定期的に交流をしています。私たちの年代は、仕事などで責任も重くなる年齢となり苦労も多いですが、友人たちは様々な面で支えとなる存在です。

また、学生時代を語るうえでははずせないのがサークル活動です。法文バドミントンサークルに所属したことで充実した学生生活を送ることができました。バドミントンの練習は月2回程度でしたが、サークルのあとの食事会や懇親会、学祭での出店、夏合宿、プライベートでの県外への旅行などいろいろな経験をしました。所属していたメンバーも先輩・後輩含め50〜60名いたので、多くの人と交流することができました。



法文バドミントンサークルの夏合宿（1999年8月、後列右から5番目）

私たちが就職活動をしていた時代は超就職氷河期&地元での就職志向が強かったため、民間の就職も厳しく、地元行政の公務員試験にも受験者が殺到していました。私もずっと公務員志望であったので、国・県・市・町の試験を次々と受験したものの、結局、卒業までに受かることができず、アルバイトをしながら就職浪人をして受験することにしました。しかし、結局受かることができず、民間企業を受けましたが、厳しい状況が続き大変苦労したことを思い出します。

今の学生さんは、私たちの学生時代と比較し、膨大な情報量を持っていて、パソコンやスマホなどに慣れ親しんでおり、ITにも強く、売り手市場のため県外での就職志向が強いと感じています。しかし、地元の多くの企業が人手不足に悩んでいます。得意な情報量を活かして、もっともっと地元企業の良さを見つけ、多くの優秀な学生がこの愛媛・松山で就職することで、地域経済の発展に繋がっていくことを願っています。

現在、仕事においても愛媛大学と関わることができ、大変懐かしくもあり、嬉しくもあります。先生方、学生の皆さん、今後とも引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



愛媛県民文化会館で開催された卒業式の法文学部祝賀会（2000年3月、右から2番目）

同窓会 提供講座 『社会と人間』

12年目を迎えた提供講座は、2018年10月3日(水)から2019年2月6日(水)まで16回にわたって開講されました。一昨年から導入されたクォーター制により、第3期と第4期にまたがって25名の講師にご協力いただきました。最終回の2月6日にはお手伝いをしていただいた学生に西田会長から感謝状と記念品を贈呈し、講師陣と一緒に反省会・懇親会を行いました。

回	テーマ	担当	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/3	小池 昭彦 久保 泰敏	1970・文経 1974・法
2	放送業界で働く	10/10	増原安希子 植田 竜一	2007・人文 2013・人文
3	働く女性の現在	10/17	林 沙織 一色 淑恵	2004・総政 2006・総政
4	金融業界で働く	10/24	薬師寺正義 青野 友紀	1987・経済 2005・総政
5	起業家として挑戦	10/31	芳野 裕士	2000・総政
6	海外で地図と羅針盤を探そう	11/7	渡部 雅泰	1985・経済
7	小売業界で働く	11/14	家高 大幸 高野 陽子	1998・経済 2013・総政
8	大学職員として働く	11/21	竹本亜希子 高橋 美祐	2003・総政 2018・総政
9	【連続履修への案内】	12/5	松井 隆幸	法文学部教員(世話人)
10	商工会議所で働く	12/12	宇都宮陽一 渡邊久美子	2000・総政 2003・総政
11	教育の現場で働く	12/19	武田 文乃	2014・人文 2016・人文科学(院)
12	芸能界で働く	1/9	谷尾 桜子	2014・総政
13	市職員として働く	1/16	大西 孝史	1999・経済
14	製造業界で働く	1/23	谷水 恭子 小田原早彩	1986・文英 2018・人文
15	IT業界で働く	1/30	伊藤 祐介 浜田じゅり	2011・総政 2001・総政
16	まとめ	2/6	松本 長彦	1981・文哲

提供講座の学生に対するアンケート結果

満足度

- ・大変満足している **38.8%**
就活をするうえで生の声を聞けたのは貴重／産休・育休などの充実度が分かった
- ・やや満足している **55.1%**
多彩なOBのラインナップが面白かった／視野が広がった／時々専門用語が分からなかった
- ・若干不満足である **5.4%**
興味のある職業がなかった／学生時代の話が少なかった
- ・不満足である **0.7%**

印象に残っている言葉・影響されたこと

どこもコミュニケーションを重視／学は己のためにす／谷尾さんのスケジュール帳(学業と芸能を両立)／自分の流儀を作る／最終回の「なぜ人を殺してはいけないか」／サイボウズの副業について など

2019年度 提供講座開講のお知らせ

回	テーマ	担当	担当講師名	現 職
1	ガイダンス	10/2	西田 和真 松井 隆幸	愛媛大学法文学部同窓会 会長、 元松山税務署長 法文学部教員(世話人)
2	ホテル業界で働く	10/9	森下 由一	ANAクラウンプラザホテル 総務総支配人
3	働く女性の現在	10/16	林 沙織 佐々倉 愛	㈱クリエアナプキ 松山支店 スタッフコーディネーター NPO法人Eyes 代表理事
4	放送業界で働く	10/23	増原安希子 植田 竜一	㈱エフエム愛媛 販売事業部/ MC、リポーター、ライター他 南海放送(株) ラジオ制作部兼 愛媛マラソン事業部
5	金融業界で働く	10/30	永田 充孝 高市 彩	㈱伊予銀行 本店営業部 営業課課長代理 ㈱伊予銀行 人事部付 法人融資アカデミー派遣
6	小売業界で働く	11/6	宮野 愛子 金田 洋和	㈱フジ 衣住第3商品部 文具・玩具バイヤー ㈱フジ・トラベル・サービス エミフルMASAKI店 店長
7	警察・消防で働く	11/13	清水 浩代 宇都宮貴文	愛媛県警察学校 松山市消防局 予防課 火災調査・啓発担当
8	芸能界で働く	11/20	谷尾 桜子	トライシグナル
9	【連続履修への案内】	12/4	松井 隆幸	法文学部教員(世話人)
10	NPOで働く	12/11	越智 大貴	NPO法人 NEXT CONEXION 理事長
11	弁護士として働く	12/18	玉井 秀樹	親和法律事務所 共同経営者
12	IT業界で働く	1/8	伊藤 佑介	サイボウズ(株) カスタマー本部 CS 企画推進部 CSコーディネーター兼 ローカルブランディング部
13	県職員として働く	1/15	栗田 謙	愛媛県 総務部 行財政改革局 行革分権課 主幹
14	教育の現場で働く	1/22	武田 文乃	松山市立南第二中学校教諭
15	製造業で働く	1/29	山下 彬	㈱アイテック 営業部
16	まとめ	2/5	松本 長彦	愛媛大学法文学部同窓会 副会長/ 愛媛大学法文学部教授

* 同窓会員の方は聴講無料です。詳細は教育支援課法文学部チーム(TEL.089-927-9220)までお問い合わせください。
また同窓会ホームページ(<https://ehime-u-houbun-dousoukai.com>)でもご覧いただけます。

講師の方に感想をお聞きました！

第3回「働く女性の現在」

(株)クリエアナブキ松山支店 スタッフコーディネーター
林 沙織



「働く女性の現在」というテーマでお話をさせていただきました。このお話をいただいたのも、現職のご縁から声をかけていただき、かつてのゼミの先生や後輩とも再会することができ、貴重な機会を与えていただきありがたく思っております。

学生へ向けての講義、ということで悩んだのが「どんな内容でどう伝えたら学生に分かりやすいだろう」ということでした。自分の経験や仕事の内容、家庭のことなどを話すだけでは、社会人経験がなく、結婚をしていない（場合が多いであろう）学生には伝わりにくいのではないかと思います、よりイメージしやすい内容を考えていきました。

私の場合、同じゼミに所属していた後輩と1コマの時間を分けたので、彼女とも事前に内容を相談し、学生時代から現在までのチャートを基に、その時々で何が起こり、どんな気持ちでどう行動してきたかを話すようにしました。学生のとき知っておいたらよかったと思うことを振り返り、きれい事だけではなく実際に起こったエピソードを入れて、よりリアルが伝わるようにしました。講義の時間内で、全ての学生それぞれに知りたいことを話すのは難しいのですが、何か1つでも心に残っていたら嬉しいです。

テーマから女子学生の方が興味のある内容かと思っておりましたが、質疑応答でも男子学生からも積極的に質問が上がり、講義後の感想にも将来配偶者ができた際、相手のことを思いやる言葉を目にして、とても心強く頼もしく思いました。

労働環境は私たちが新入社員の頃と今とでも大きく変わっておりますが、今後も変わり続けていくはずで、男性も女性もライフスタイルが変わっても働きやすくなるよう、私たちも「働くこと」を考えて続けていかなければならないと思います。

学生たちがやりがいのある仕事に出会い充実した社会生活が送れるよう、少しでも力になれていたら幸いです。今回は私にとっても良い経験となりました。本当にありがとうございました。

第10回「商工会議所で働く」

松山商工会議所 総合企画部 総合企画課 企画係長
渡邊久美子



今回、「商工会議所で働く」をテーマに講義をさせていただきました。講義室いっぱいの若さあふれる学生さんたちを前に、最初はとても緊張しましたが、自分のこれまでの経験が、学生さんたちの今後の人生におい

て、何か少しでもお役に立てることができれば幸いです。と思います、お話をさせていただきました。

しかし「商工会議所で働く」といっても、学生さんたちにその仕事のイメージが湧くかどうか、不安もありました。そこで冒頭では、クイズ形式で身近な検定試験や松山まつり等の取り組みについて、お話しさせていただきました。

少し緊張もほぐれてきたところで、いよいよ本題です。まずは、私がこれまで経験してきた仕事内容や、学生時代についてのお話をしました。在学時の短期海外留学の経験やゼミ活動の様子、進路・就職活動等の話を通して、海外経験の貴重さや視野を広く持つことの大切さ等を伝えさせていただきました。

学生さんたちに一番考えていただきたいと思ったのは、「何のために働くか」です。答えは一つではないと思いますし、私自身もまだまだ模索中の永遠のテーマです。AI・IoTの進歩やグローバル化等、社会環境が目まぐるしく変化する中で、「人間の働き方」は大きく変化しています。人間には、これまで以上に柔軟な発想やアイデアが求められるようになってきますが、後輩の皆さんには、このような環境の中でこれから働いていくという認識を持ち、頑張っていたきたいと思います。そして、就職を機に県外へ転出する学生さんも多い中、どうかこの愛媛・松山で働き地域を支える人材となり、活躍していただきたいと願います。

最後に、今回の機会を通して自身を振り返るとともに、受講生の皆さんからも貴重な感想や意見をいただくことができ、私自身も大きな学びとなりました。関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

加藤好文名誉教授(前同窓会理事)が 放送大学愛媛学習センター所長に



前法文学部長の加藤好文愛媛大学名誉教授が、放送大学愛媛学習センター所長に就任されました。加藤センター長は一昨年まで法文学部長として新学部（社会共創学部）の創設や法文学部の改編にご尽力されました。また法文学部の卒業生でもあり、昨年まで同窓会本部理事を務められました。

出願期間(予定)

○教養学部・大学院(修士選科生・修士科目生)

4月入学：2019年11月下旬～2020年3月中旬(予定)

10月入学：第1回募集 6月15日～8月31日

第2回募集 9月1日～9月20日

○大学院:修士全科生(年1回募集・選考試験あり)

8月15日～8月26日

多彩な放送授業 約300科目。1科目からでも学べます。

*資料を無料で差し上げております。お気軽に愛媛学習センターにご請求ください。



放送大学 検索

〒790-0826 松山市文京町3番

放送大学愛媛学習センター

TEL 089-923-8544

URL www.sc.ouj.ac.jp/center/ehime/

愛媛県以外の方は、本部へお問い合わせください。

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11

放送大学 本部 TEL 043-276-5111(総合受付) URL www.ouj.ac.jp

法文同窓会 チーム

お城下リレーマラソン 新記録!

恒例の「マツヤマお城下リレーマラソン」は、2018(平成30)年10月13日(土)、松山市堀之内で開催されました。4回目の参加となった「愛媛大学法文同窓会」チームは、現役レスキュー隊員が加わるなど、かつてないレベルの高いメンバーが揃い、記録更新を達成しました。

1周1500mを28周、男性8名がお揃いのTシャツを着て交替で周回し、タイム・順位とも過去最高を記録しました。

2019年は10月12日(土)、8名でお城下(堀之内)を駆け抜ける予定です。お近くの方は、是非お立ち寄りください。



42.195km
3時間10分26秒
60位/262チーム



新記録を達成したメンバー。(前列左から)住友良光、和田遼司、高田敬士、永原和弥、大塚英俊、(後列左から)鳥生勉歳、寒作典員、土井明人、小池会長(敬称略)

愛媛大学合唱団

坂元廉^{れん}さん(団長)、東雲真弥嘉^{まやか}さん、野本英理加^{えりか}さん

平成31年4月1日、新しい元号が発表された。「令和」と。政府からの発表で英語では「ビューティフルハーモニー」と表現するとのこと。それに便乗するようだが、今回の部活動の紹介は合唱団である。

昨年の11月に北海道札幌市で開催された第71回全日本合唱コンクール全国大会大学ユース合唱の部で見事、銅賞に輝いた。

現在、部員は76人。医学部以外の、各学部から学生が参加している。今回の取材にはたまたま法文学部の学生3人(ともに3年生)が応じてくださった。

団長 坂元 廉さん バス(高知県出身)

団員 東雲真弥嘉さん ソプラノ(大分県出身)

野本英理加さん アルト(愛媛県出身)

必要以上に詳しく書いたのは、多数の学部や出身が多様な人々をまとめ、美しいハーモニーを生み出すのは、大変だろうなどの思いからである。



右から坂元さん、東雲さん、野本さん

76人がソプラノ、アルト、テノール、バスのパートに別れ、混声四部合唱が基本の合唱団である。練習は週3回(月、水/18:20~20:20、土/9:00~11:30・13:00~15:30)。すごくハードなのに驚くと同時に、全国大会銅賞もむべなるかなと納得した。練習は大学構内、大学周辺の公民館で行っているという。専門のヴォイストレーナー(豊田千恵子先生、大成直子先生)もいる。

ある日、バスのパート練習を見学させてもらった。この日は学内の教室だった。音をとるための電子鍵盤を手にしたリーダーがそれを置き、前に立つと、部員が



バスのパート練習の様子

教壇の上に、適当な間隔をおいて並ぶ。準備体操が始まった。ご覧のように真摯な態度で、懸命に続く。この日はパート練習のあと、全体でヴォイストレーナーの方の指導も受けるということだった。

後で合唱団のホームページを見てみると、「勤唱・吟唱・動唱」を年間目標に掲げていること、春合宿も実施したとの記事もあり、成績の素晴らしさがますます胸に落ちる思いだった。

団長の坂元さんの話ですーんと来たのは、高知県から愛媛に来て、愛媛大学の名誉教授、全日本合唱連盟名誉理事長、愛媛県合唱連盟の会長、生存者叙勲受賞など光輝ある栄誉に満ちた佐藤陽三先生にお目に掛かったとき、そのお姿から「これぞ合唱」というオーラを感じ、全身が震えたというお話し。愛媛県人として、とても誇らしい思いがした。

取材時は、新しいメンバーで初めての公演(6月16日松山市コミュニティセンター)の第60回愛媛合唱祭に備えて練習の真っ最中であつた。童謡「ぞうさん」で有名な、まどみちおさんの5編の詩からなる「うたよ!」を選んだ。木下牧子作曲により混声合唱曲集になっている。その中の「きこえてくる」を歌う。



当日は男女ともにステージ衣装に身を包み、渡部菜々美さんの指揮、室津優希さんの伴奏のもと、すばらしいハーモニーを披露した。



第60回愛媛合唱祭でビューティフルハーモニーを披露

厳しい練習はまじめに努め、でも遊ぶときは全力で遊ぶということである。取材の中で、それぞれの学部でそれぞれの個性があること、各パートでそれぞれの個性・雰囲気があることの話が興味深かった。たとえばソプラノの人は相対的に元気で、アルトはしっかり者、テノールはお調子者っぽい、バスは落ちついた雰囲気があると言える。それを互いに補い合い、違いをこえて、合わさったところにある「人の和」そのものが響く合唱であつた。

(取材 廣田章子・和氣坂ハナミ)

Graduation Memories



吉田正広学部長挨拶



西田和真同窓会会長挨拶



司会の後藤珠希さん(H18年卒)



三木奨学賞授与 人文学科 西原結友さん



人文学科

卒業生数

- ◆総合政策学科
昼間主267名 夜間主65名 (計332名)
- ◆人文学科
昼間主127名 夜間主63名 (計190名)



卒業生代表謝辞 総合政策学科 玉ノ里純平さん



佐藤智秋評議員 乾杯の音頭



万歳三唱 小田敬美副学部長



総合政策学科

支部だより

関東支部 [東京章光会]



令和時代の幕開け、法文学部創立50周年(昨年)、法文学部同窓会創立60周年、そんな記念の年の7月13日(土)に東京章光会第55回定期総会を、新しくなった大手町サンケイプラザで開催しました。

当日は梅雨寒の中、来賓として吉田正広法文学部長、西田和真本部長、渡部雅泰本部副会長、岡本正明にきたつ会会長、岡田禎之広島支部支部長、中島邦雄四国支部副支部長、愛媛県東京事務所の三好康道さん(平成3年卒業)、松山市東京事務所の熊田真也さん(平成22年卒業)をお招きして総勢45人の参加となりました。

総会では大村万夢里事務局長補佐の司会のもと、阿部仁会長の開会の辞に始まり、吉田正広法文学部長と西田和真本部長に祝辞をいただき、続いて平成30年度活動報告、令和元年度活動方針案、平成30年度会計報告、令和元年度予算案の審議を行ない、提案どおり満場一致で承認されました。三宅一夫監査により会計監査報告も発表されました。

定期総会終了後、4階のホールに移動して、校友会首都圏支部およびユウカリ会東京支部と合同で懇親会を開催しました。

懇親会に先立ち、村上研二愛媛大学名誉教授による「今AIが面白い!」と題する講演会が開催されました。AIと共存する世界には参加者の多くの人が関心(自動車の自動運転、囲碁将棋の人間との勝負、スマート家電、ロボットなど)があり、話に引き込まれました。理論的にはなかなか理解が難しかったですが、第4次産業革命といわれるAIの将来にも大いに興味を引かれました。2045年にAIが人間知性を超えると予測される「2045年問題」には興味以上に不安も感じざるを得ませんでした。

合同懇親会は今年からの企画で、広い会場で他学部同窓会との交流で少し不安もありましたが、80数人の参加で盛大な会となりました。例年どおり「葛飾フィルハーモニー管弦楽団」による管楽四重奏演奏(今年は「花」がテーマでした)も行われました。アンコールでは「情熱大陸」も演奏していただきました。

長年の課題ですが、若手の総会参加者の拡大を役員一同今後も力を尽くしますので、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。手始めに連絡網の拡充を進めていきます。

東京章光会 副会長兼事務局長 荒木雅弘

東京章光会連絡先

Tel・Fax 03-3877-4677

(愛媛大学サテライトオフィス東京内)

関西支部 [にきたつ会]



今年も7月7日(日)に大阪市北区ブリーゼ・プラザで、令和元年度定時総会ならびに懇親会を開催しました。

来賓として、法文学部・吉田正弘学部長、同窓会本部・松本長彦副会長、東京章光会・阿部仁会長、広島支部・岡田禎之支部長、四国支部・宇都宮真由美支部長、四国支部・白井瞳事務局長を迎え、校友会・後藤幹郎近畿支部長(にきたつ会顧問)を加え、出席者は37名でした。

まず岡本会長が「ご来賓の方々はじめ、多数の支部会員の皆様のご参加にお礼申し上げます。昨年は台風の影響で交通網が寸断し、欠席を余儀なくされた方々に申し訳なく、愛媛県では水害による甚大な被害があり、1日も早い完全復興をお祈りいたします。また昨年は法文学部創立50周年記念式典が盛大に開催され、私も出席し素晴らしい節目になったと感激しました。同窓会では今秋に卒業生名簿が完成するとのことで、同窓会活動に大きな力と期待いたします」と挨拶しました。

次に資料に沿って「第1号議案 平成30年度活動報告および令和元年度活動計画承認の件」を赤星事務局長が、また「第2号議案 平成30年度収支計算書および繰越金内訳承認の件」を合田会計監事が詳細に説明し、拍手で承認されました。

総会終了後、全員で記念撮影をしました。

お楽しみの懇親会は、まず来賓を代表して吉田法文学部長から「大学・法文学部の近況と今後の課題」、次に松本本部副会長から「同窓会の近況と今後の課題、また法文学部教授としての考察」のご挨拶を頂戴し、平田副会長の発声で「にきたつ会の今後ますますの発展を祈って」全員で乾杯しました。

その後、来賓はじめ出席者全員から自己紹介と一言挨拶、安藤副会長から恒例の「第10回万葉ウオーク」の案内がありました。

楽しい時間が瞬く間に過ぎて、岡田広島支部長の発声で学歌斉唱、最後に澤井副会長から閉会の挨拶があり岡本会長からも「今後とも、誘い合わせて一人でも多くの会員のご出席をお願いします」と締めくくりました。

お土産として、同窓会60周年記念の「ぶんぼートートバッグ」が全員に渡されました。



第10回万葉ウオーク 11月17日(日)開催

ご興味のある方は、下記までご連絡ください。

関西にきたつ会連絡先

会長 岡本正明

Tel 0742-34-0190 E-mail: bookhill@nifty.com

または、ご存知の役員・幹事まで

広島支部



広島支部では第14回総会を平成30年9月8日(土)午後1時から『ひろしまハイビル』にて51名の参加者で開催しました。

当日は、大学から吉田学部長、同窓会本部から小池会長、東京章光会から阿部会長、関西支部にきたつ会から岡本会長、四国支部から宇都宮支部長が駆けつけてくれました。

総会を終えると、会場を移り、午後1時30分から校友会中国支部設立総会を開催致しました。多くの方々の協力のもと、校友会中国支部設立総会は、大橋学長をはじめ、多数の来賓の方々をお迎えし、総勢133名で盛大な会を開くことができました。

午後3時30分からの懇親会は、野村校友会副会長による乾杯に始まり、琵琶や三味線の生演奏を楽しみながら、参加者同士懇親を深める場となりました。

懇親会の最後の締めくくりは、岡田校友会中国支部長(法文同窓会広島支部長)の音頭で『愛媛大学学歌』、逍遙歌『若葉の古城』『三光寮を歌う』を声高らかに歌い上げ、河野中国副支部長の一本締めで散会となりました。

校友会中国支部設立総会および懇親会は、世代と学部を超えた交流が生まれ、これまでにない素晴らしい会になっていたように思います。

さて、次回同窓会は、令和元年9月7日(土)12時から『銀河』にてクルージングを開催の予定です。みなさまお誘いあわせのうえ多数のご参加をお待ちしています。

役員

顧問	竹本 義昌	(昭和33年文理学部 人文乙卒)
顧問	楠本 淳	(昭和35年文理学部 人文乙卒)
支部長	岡田 禎之	(昭和40年文理学部 人文乙卒)
副支部長	難波 宜久	(昭和62年法文学部 法学卒)
事務局長	品川 瑞	(平成5年法文学部 法学卒)
幹事	村上 道機	(昭和43年文理学部 人文乙卒)
幹事	梶原 勝	(昭和63年法文学部 経済卒)
幹事	松本 亜紀	(平成5年法文学部 法学卒)
幹事	大西 慎也	(平成18年法文学部 総政卒)

事務局連絡先

あさがお司法書士事務所内 品川 082-208-5886

四国支部



第13回 四国支部総会報告

平成30年11月11日(日)にANAクラウンプラザホテル松山(南館)にて、本部と合同で支部総会を開催しました。宇都宮支部長の挨拶のあと議案が承認され、本部総会、昼食と滞りなく進行了しました。午後からは法文学部創立50周年記念式典に出席して、学部の50周年を祝い、懇親会で会員や現役の先生方・学生との親睦を深めました。

第9回 四国支部お花見

平成31年4月6日(土)すし丸本店(松山市三番町)にて県外からの参加者も含め21名で開催しました。令和2年は久しぶりに渡部家住宅で開催の予定です。



第14回 四国支部総会のご案内

日時：令和元年11月10日(日) 13:00～

場所：ピュアフル松山(松山市宮田町132)

会費 5,000円(懇親会費)

※同封のハガキにてお申し込みください。

第10回 四国支部お花見のご案内

日時：令和2年4月4日(土) 13:00～

場所：渡部家住宅

(国指定重要文化財・松山市東方町1238-1)

会費：3,000円

※同封のハガキにてお申し込みください。

四国支部事務局連絡先

副支部長(企画担当) 玉井周平

携帯 090-8973-7650

E-mail : tousui78@yahoo.co.jp

事務局(案内等担当) 鳥生勉蔵

携帯 090-4506-1684

E-Mail : toriu71@gmail.com

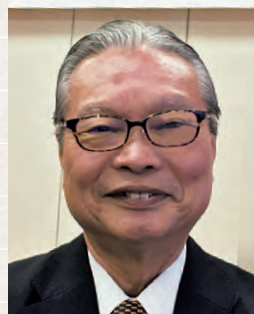
支部紹介 広島支部

銀行、市役所を中心にまとまる

これまで3回にわたって連載した「支部紹介」。いよいよ最後は広島支部です。

まずは広島支部の歴史を岡田支部長に振り返っていただきます。

広島支部の歴史を振り返って



広島支部支部長

岡田 禎之さん

1965年文理学部人文学科乙卒

平成30(2018)年9月8日、法文学部同窓生51名が「ひろしまハイビル21」の17階小会議室に参集し「法文学部同窓会広島支部第14回定期総会」が開催されました。続いて、同階の大会議室において、130名を超える愛媛大学同窓生が参集し「愛媛大学校友会中国支部設立総会」が開催されました。来賓として学長をはじめ本部や他支部からも御出席頂き、盛会のうちに終了しました。そこで、今回は、法文学部同窓会広島支部の歴史を振り返ってみたいと思います。

平成16年、法文学部同窓会本部会長の仙波太郎さん(当時)が広島におみえになり、「法文の同窓会が、関東、関西にはあるが、広島にないのはおかしい。愛大は中国地区からの入学者も多く、何とか同窓会の支部を作ってもらえないのか」との要請を受けて、当時の広島銀行元専務の竹本先輩、元常務の谷井先輩が中心となって、広島支部として発足することになりました。

支部長は、昭和35年文理学部人文乙学科卒の楠本さんをお願いし、事務局を岡田が担当して、平成17年、第1回の支部総会をハイビル21の17階で開催しました。20名ほど参加があり、今後も年に一度は集まって同窓会を開こうと、東京、大阪、四国からも来ていただき、学歌、寮歌を歌って、次につながる氣勢をあげ、始めました。

平成20年の第4回からは、支部長に事務局長の岡田が就任し、総会を開く会場もホテルを使い、またある時は、瀬戸内海汽船(同社の代表である仁田さんは親子とも愛大卒)の「銀河」というクルージング船で開催して、参加人数も次第に増加してまいりました。

平成26年の第10回大会は、ホテルグランヴィアの14階の特別ルームで、手土産に六時屋の木箱入り高級タルトをはりこんで、お祝いしました。

最近では50名を超える参加者で、関西、四国、隣県からも参加していただき、

社会に出たばかりの若い人も、昔を懐かしむ熟年の方も集まり、愛大卒という名の下に学歌・寮歌を歌い、エールを切って、また来年会いましょうと氣勢をあげて終了しています。

卒業生は大学にとって、大きな財産です。社会に出て色々な分野で活躍し、社会で認知されることにより、大学も社会での存在感が増加し、入学希望者が増加し、評価があがって、地域創生の核となり、発展し続けるのです。ですから、卒業生のフォローが重要になります。その過程に同窓会の開催があるのではないのでしょうか。

大手の私学は全学を一つにして、大々的に同窓会を開催し、理事長をはじめ、教職員もこぞって参加しているのが現状です。同窓会には多くの情報が集まり、それが、それぞれの活躍の一助となり、大学にとっても運営管理の指針の一つになっているからです。独立法人化して、かつてのように補助金に全てを頼る時代は過ぎようとしています。米国では同窓会が、寄付金を集めるマシンとなっています。卒業生を中心に寄付金をお願いしなければいけない状態が迫っています。

卒業生に目をむけ、その動きに対応できる校友会の充実が必要ではないのでしょうか。



クルーズ船銀河で開催された広島支部総会(2016年11月5日)

広島支部メンバーにインタビュー



谷井 繁さん

広島支部顧問 [1962年卒]

「ピンチの後にチャンスあり」。私の社会人人生を一言で言えば、こんな感じでしょうか？
1962年に広島銀行に入行し、常務取締役を退任するまで、いろんなことがありました。

若い行員のとき、ある事件に遭遇し、「懲戒、減給、左遷」を受けることになりました。しかし、罰を受けた時の支店長に仲人をしてもらい、次の支店では罰を命じた人事部長が支店長に着任し、融資の技量を認められ、名古屋支店の次長、人事課長へと登用されました。
〈嫌なことがあっても、決して腐ることなく、コツコツとベストを尽くすよう〉

若い人には、後悔のない人生を送って欲しいものです。



松本 亜紀さん

広島市役所、広島支部幹事 [1993年卒]

平成元年に法文学部法学科に入学しました。今年は令和元年。私にとっての平成は成長の時代でもありました。

平成5年に広島市役所に入庁し、広島ならではの原爆・平和に関する部署をはじめ、経済や地域の活性化に関わる事業など、幅広い分野を経験してきました。広島市役所には、約80人の愛媛大学出身者がおり、ここ数年、毎年のように10名程度が新卒者として採用されています。同窓会も毎年開催し、「愛大」という繋がりが仕事面でも活きています。

法文学部同窓会広島支部でも役員としてお世話をさせていただいています。毎年の総会では、若い方から大先輩まで多くの方の参加があり、世代を超えて思い出話が尽きない楽しいひと時となっています。社会人同士としての思わぬ横の繋がりもあり、人脈も広がります。ぜひお気軽に御参加ください。お待ちしております。



額田 真優さん

広島銀行 [2014年卒]

私は大学時代、イギリス文学を専攻し、井上ゼミに在籍していました。学業以外では、落語研究会やバンド活動を積極的に頑張りました。学生時代の反省点ですが、もっと人の輪を広げられたらよかったと思います。その反省を生かし、学生時代以上に、公私を問わず、新しいことに積極的に挑戦するようにしています。私は、パートナーと大学時代に知り合いましたので、愛媛大学は、私にとって運命の場所です。これからも同窓会には積極的に関わっていきたいです。



福本 達也さん

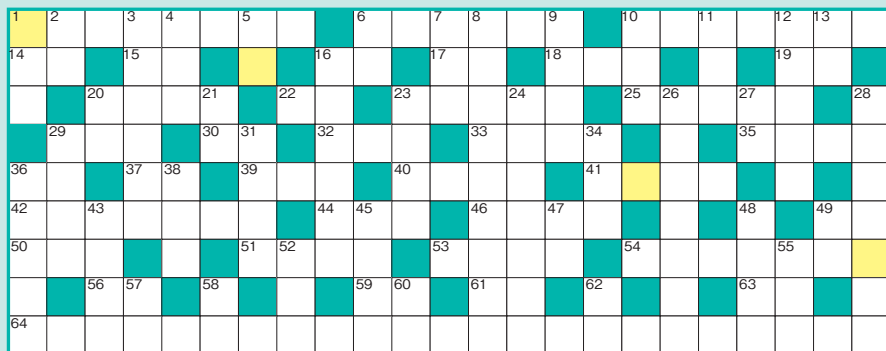
広島銀行 [2017年卒]

私は大学時代、アイスホッケーをしていました。アイスホッケーはとても楽しいスポーツです。今でも続けているのですが、悩みの種は、なかなか仲間が集まらないこと、そして施設が少ないことです。この記事を見てアイスホッケーに関心を持たれた方がおられましたら、是非ご連絡ください。一緒にアイスホッケーをしましょう。アイスホッケー以外にも、旅行が大好きで、将来はスペインやイタリア、アメリカにも行ってみたいと思います。社会人としては始まったばかりですが、幸運にも、職場だけでなく、同窓会でも、様々な経験を積まれた諸先輩方がおられるので、意見をよく聞きながら成長できたらと思っています。

問題

クロスワードの色がついたマスに文字を並べ替え、愛媛大学に関係のあるキャラクターの名前を教えてください。

(出題：H16卒・矢野彰大氏)



【解答】

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2019年12月15日まで**に本会までお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 25人

第22号 パズルの答え

正解：シュク・ホウブン (祝・法文)



タデのかき

1. 捕まえること
2. ○○の太木
3. 世間とずれている
4. 劉備に仕えた武将
5. フィリピン島の1つ
6. 6 + 1 =
7. ○○無象
8. 同窓会の創立60周年を契機に発行
9. 江戸時代の謹慎処分
10. ゴルフの距離の単位
11. 通り道
12. ツツジ科ツツジ属
13. 4時の1時間後
14. *
15. 難解漢字に振る
16. ビール
17. 反動で手に戻る玩具
18. 今年で創立70周年を迎える大学
19. 信長・秀吉の時代
20. わかっている人
21. 江戸時代の発明家
22. 主に愛媛県で生産される柑橘類
23. 受容体
24. ターメリック
25. 碧玉、リボンの騎士
26. 霧
27. 表面の皮
28. ○○虚子
29. 人の上に人をつくらす
30. 勝利数>敗北数
31. 育てるのに8年かかる
32. 賭博場
33. 夜の空
34. 顔の横側
35. お母さん
36. おうち
37. お父さん

ヨコのかき

1. マスコミのニュースを制限
2. 双方を良く言う
3. テキトーな作業
4. 立体の端に
5. 観光旅行
6. 沈黙は○、雄弁は銀
7. ○○と雪の女王
8. エレファント
9. からかい、罵声
10. 月曜日の次
11. 紫色の野菜
12. てんぶんの有無を検査
13. 扉の鍵
14. ○○の白ウサギ
15. フェンシングの試合開始
16. 塔
17. 雨が氷になって覆う
18. 広い海
19. 夜
20. 「ヨコ56」に立つ
21. セリ科の野菜
22. 4日目の4日後
23. 鶏の一種
24. 中華スープの一つ
25. 星
26. 俊足
27. シャドウ
28. 足の幼児語
29. 手を広げる
30. ネット上の住所識別機能
31. 使った気になり貯蓄する
32. 地表の約7割
33. へーいいえ
34. 忍者の里
35. 去年
36. あの花

前回パズル当選者(敬称略)

解答者 71人中、正解者 64人

図書カード1,000円分 (25人)

妹尾 顕一 (S32)、氏原 靖規 (S45)、板橋 俊夫 (S49)
奥田 幸男 (S52)、市川 雅宏 (S62)、白石みゆき (H1)
山崎 哲利 (H5)、平野 嘉成 (H6)、栢原 一夫 (H9)
清水あづさ (H12)、若槻 直人 (H12)、山本 昌数 (H13)
村田日南子 (H14)、村上 智子 (H16)、赤石 知子 (H17)
西村 健司 (H18)、加藤 瑞枝 (H20)、港 紗有里 (H23)
谷 康太郎 (H23)、一色 美穂 (H24)、渡部万里香 (H24)
柴田 邦一 (H25)、佐藤沙也加 (H26)、玉井 花奈 (H29)
佐伯 優佳 (H30)

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は「メキシコ現地レポート」(35人)、2位は「研究室紹介」(20人)、3位は「卒業生から」(15人)、4位は「和田茂樹先生の想い」(13人)、5位は「大手メーカーの人財開発部長として」(11人)。以下、「学部長・事務課長インタビュー」(9)、「青い地球交流記」(6)、「支部だより」(5)、表紙(4)、法文学部創立50周年記念事業(4)、同期会(4)、サークル紹介(4)、卒業記念祝賀会(4)、パズル(4)など。

意見・感想

お褒めやお礼、励ましの言葉をたくさんいただきました。

●表紙の「ぶんぼー」が可愛いとの複数のご意見がありました。●「FacebookなどのSNSとリンクしてはどうか」というご意見もありました。●「各地の同期会の報告が紹介されているので刺激されて各地で広がることを期待します。」●「卒業生の大学時代、就活、今現在の記事は、いつも楽しみにしています。」●「寄付をした人の中に同級生らしき方のお名前を見つけ、懐かしくなりました。」●「卒業された方のご活躍を読むと、自分も頑張ろうという気持ちになります。」●「マスコミキャラクターができて驚きました。」●「全ページカラーの方が読みやすいかなと思います。ページ数はもう少し少なくてもいいです。」●「愛大の最新情報を知ることができ、良かったです。」●「留学している人が多いのだと改めて思いました。」●「もう少し写真をきれいにしていきたいです。」●「校内写真掲載のとき、ネガが残っている場合には10年又は20年毎の比較写真が掲載されていると記憶を呼び起こし易く、親近感が増すと思います。」●「若い世代にもっと登場してもらわないと、ただでさえなかなか見ない人が多いように思う。」

主なリクエスト

- 「ユニークな活動をされている同窓生を紹介して頂きたいです。」
- 「～年卒、広島組、集まりませんか？」など載せる掲示板のようなスペース。「自分で事業を始めました!」「子育てしながら働いています!」というような投稿スペース。●「卒業生からをもっとたくさん見たいので多くしてほしい。」●「学祭などのイベントの写真をたくさん見られたら嬉しいです。」●「キャンパス施設の紹介も見てみたいですよ。」●「恩師や後輩たちの研究の現在が伝わる記事や、多様な分野で活躍する同窓生の手記等、今後も期待しています。」

パズル等の解答にいただいた個人情報は、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

【編集後記】

- 今回は編集委員の皆様にも同窓会名簿編集委員を兼務してもらった上に、同窓会60周年記念事業の検討にも参加いただき、毎月ハードなスケジュールで大変なご負担をお掛けしました。ただ、ただ、頭の下がる思いです。(渡部)
- 昨年度の学部創立50周年は無事終わりましたが、今年は同窓会創立60周年・ミュージアム創立10周年・愛媛大学創立70周年で、慌ただしいままに過ぎていきます。(松本)
- この度、同窓会報編集委員長を拝命しました。委員の方には、献身的に身を粉にして貢献いただき感謝で一杯です。私の座右の銘は生涯青春!です。(渡部)
- 3年振りに事務局長に復帰です。同窓会60周年で名簿発行・記念グッズなど大変でした。記念式典がないのが救いです。50周年でなくてよかった。(鳥生)
- リハビリ順調!! 昨年8月からは毎日1万歩を連続達成中です。ウエストも10cm細くなり、友人からアスリート体型だと言われました。(久保)
- インタビューさせていただいた鈴木先生の優しいお人柄に、つい私の個人的なことまでお話ししてしまいましたが、とてもためになりました。(野寄)
- 令和元年、同窓会も名簿や60周年企画と記念の年に。これを機に多くの方々に同窓会に関心を持っていただき、盛り上がっていただきたいと思います。(小林)
- 国文の同期の乙女5人が集まった4月1日「令和」と新元号が発表された。昭和、平成、令和と生きているのだなあ。(廣田)
- 「令和」元年。「令和」は万葉集から生まれた。今も元号を使う国は、日本だけ。なんと「令和」を含みこれまで248もの元号が存在する。(和氣坂)

発行 2019年9月
発行 愛媛大学法文学部同窓会
編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376
印刷 アマノ印刷